朋友

25周年 特別号

東京電機大学高等学校同窓会

◇◇◇　目　　次　◇◇◇

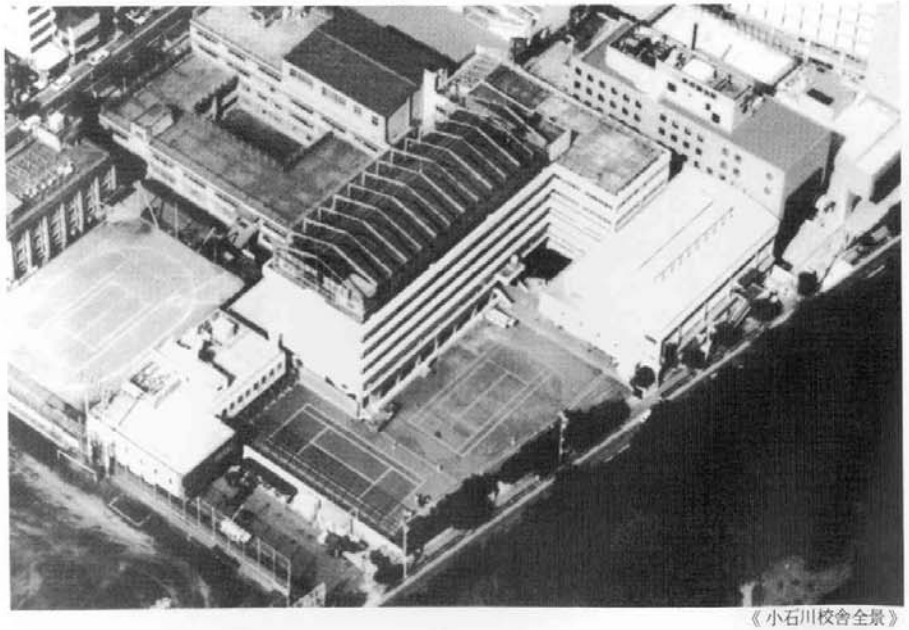
同窓会創立25周年によせて……1
高等学校同窓会創立25周年にあたって……2
〔座談会〕石川明さんを囲んで……3
同窓会設立の前後……15
同窓会の歩み・歴代幹事長より一言……16
〔名　簿〕歴代教員……18
　　現教職員……20
同窓会会則及び組織図……22
クラス委員名簿……23
同窓会の活動報告……32
クラス会お祝金について……34
名簿の整備・校友会案内……35
後援会活動……36

《表紙について》

表題の「朋友」は現高等学校吉田宇一校長の直筆によるもので，同窓会幹事会において鷲見篤氏よりご提言いただいたものです。「朋友」は仲のよい友達とか友人という意味を持ち，英語での「FOR YOU」……（会員皆様方のための）という意味を持たせております。

又，表紙の「若者の像」は河部貞夫先生の作で，学園創立50周年記念と合わせ，同窓会で募金したレリーフ基金及び学園，生徒会の援助により製作されたもので，小石川校舎玄関口右手におかれています。このたび本誌のため，この像の写真を基に，当時を思い出し再度デッサンをしていただきました。

なお，先生は76才になられ御健在です。



《小石川校舎全景》

同窓会創立25周年によせて

東京電機大学高等学校校長
東京電機大学高等学校同窓会名誉会長　吉　田　宇　一

思いおこしますと，私が昭和１７年１２月に電機第一工業高校第二本科を卒業してはや４２年がたちました。当時は大東亜戦争の真只中で，それから３年後に終戦になり，昭和２０年１１月に学園に俸職しました。

第一回の卒業生という意識もありましたので，学校に勤務している自分が同窓会の設立について先頭にたたなければという気持ちはもっていましたが，終戦直後の混乱の中ではどうにもそこまで手が廻らなかったこともありました。かと言って具体的に何もしなかったというわけではありません。当時校長であられた橋本健之助先生のご指導もあって，何度か同窓会設立について試みはいたしましたが尻切れトンボになり不調に終ってしまいました。ある時は第二本科四回卒業の柏倉基之助君の弟さんにドラムで有名な白木秀雄氏（故人）が居られて，その彼がまだ錦城高校の生徒の時ドラムで日本一になりましたのを機会にその弟さんを招いてアトラクションとしてドラムをたたいていただき同窓会の創立総会のようなことをしたこともありました。しかしそれもその時限りで後が続かなくなってしまい恥しく思ったものでした。

その後，一工２４年卒の今田正氏，二工２３年卒の鷲見篤氏，高校２５年卒の河原崎由夫氏等が集って同窓会創立について連日献身的な協議を重ねられました。そうしてこぎつけたのが２５年前の昭和３５年４月で本年２５周年を迎えるに至ったということであります。

創立にたずさわった方々には頭が下がるのみでありまして，あらためて敬意と感謝申し上げる次第です。

爾来歴代幹事長はじめ幹事の方々が，手弁当で奉仕に奉仕を重ね，ある時は集りのある度に「一円募金」を行って，学園創立６０周年を期して小石川校舎玄関前に，河部貞夫先生作のレリーフ「若者の像」を寄贈され，後輩の為に暖かい心づかいをして下さいました。

私が母校の校長に就任以来満７年経過しましたが，就任の決意の一つとして，学校と同窓会が和気藹藹のうちに共に栄えることが私学としての必須条件と考えました。そして同窓会の成長に学校もできるだけの力を注ぎ，同窓会はまた暖かい目で学校を後援していただくよう，ともにより一層心掛けあうことを念願したわけであります。たまたま就任翌年の昭和５４年は高校創立４０周年にあたり，同窓会創立２０周年という節目でもあったので，同窓会，ご父母，学校の三者で創立を祝う会を開催しましたが，この時も同窓会の皆さんの格別なお骨折りによって祝賀会も立派に挙げることができました。そのうえ同総会は記念の募集を行い，記念誌「回想」を発行されるとともに，校庭整備にと５００万円の寄付を学校に寄せられました。

お蔭様で学校の校庭も以前よりも体裁をととのえました。この時は会員である国土企画の益山茂（４０年卒）氏も商売ぬきで植樹に協力してくれました。同窓会のご好意は，校庭の道路よりの植え込みの中に標識が置かれ，代々後輩に伝えられるようになっています。

また同窓会とＰＴＡのご父母と語らって，学校のクラブを後援して下さる「クラブ後援会」を創って下さったのもそれから間もなくのことであります。毎年３００万円程をクラブの活動に役立たせていただいていることは感謝に堪えません。

同窓会と学校のふれあいは年々密接なものになっています。ねがわくば３万人を越す卒業生の皆さんが，各クラス会は結構開いているようですから，せめて一年一回の総会には一人でも多く学校に参集され，今まで以上にふれあいを深めていただけたいことであります。

かねがね申し上げておりますように，私学の発展は学校のみでなく，卒業生，在校生（父母）の三本柱がバランスのとれた強さをもつことであります。お互いに手をとりあって三本柱の成長を期そうではありませんか。学校も努力いたします。同窓会の皆さんの声は謙虚に耳を傾けて，よいことは実行します。今後とも学校へのご支援をお願いするとともに，同窓会の益々の発展を祈ります。

高等学校同窓会創立25周年にあたって

東京電機大学高等学校同窓会会長　印　宮　　登

本日ここに高等学校同窓会創立25周年記念事業を挙行し，又25周年記念誌をお手元に届けることができますのも，卒業生である会員の皆様と，先生方を初めとする教職員の皆様のご支援，ご協力の賜物と深く感謝致しております。東京電機大学高等学校同窓会は，今田正，鷲見篤，川原崎由夫の三氏を初めとする方々のご協力により，昭和35年４月17日の設立総会によって産声を上げてから，今年が丁度四分の一世紀，創立25周年にあたります。これを記念して，石川明日本テキサス・インスツルメンツ社長（昭和31年高校普通科，昭和35年大学電気通信工学科卒業）の「エレクトロニクス先端産業と今後の方向」と題する記念講演と，祝賀会，記念誌の発行等を計画し，今日を迎えた次第であります。

母校の東京電機大学高等学校は，その源を昭和14年創立の東京電機工業学校（後に電機第一工業学校と改称）に発し，又一方の源を電機第二工業学校に発します。その後新制高校の電機学園高等学校へと発展し，昭和31年法人名変更に伴い，現在の校名に改称されたものです。昭和17年の第一回卒業生89名から，本年３月の卒業生，463名迄を含め卒業生総数は，２万２千余名を数えるに至りました。このなかには，一工や二工の様に廃止された学校や，定時制，電気計測課程（後の工業計測科）や機械科の様に廃止されたり募集停止になった学科などもあり，寂しい思いをされている卒業生もおられるでしょう。しかし一方では，昭和60年度より電子機械科なる全国に先駆けた学科も設置され，母校は益々の隆盛を誇り頼もしく思われる卒業生も多いでしょう。出身学校名や学科名は異なっていても，高等学校同窓会としての結束は固く一つに結ばれております。

又校舎も当初は，神田で電機学校・大学と同一の校舎でスタート致しましたが，昭和40年に現在の文京区後楽の小石川校舎へ移転し，今年で丁度20年になります。古い卒業生には懐かしい三角グランドと交換した，近くの都有地であった所に，校舎・体育館を建設したもので，前には水戸黄門ゆかりの庭園，小石川後楽園を望み，隣りには小石川運動場があり文教施設に適した環境となっております。私ごとで恐縮ですが，私が入学したのは昭和38年のベビーブームの時代で，神田校舎はギュウギュウ詰めの状態で，１クラス70名編成という驚く数字でありました。それでも１年次にはホームルームがあったが２年になると，益々ベビーブームの煽りを受け，ホームルーム無しという状態に陥りました。青空教室という訳にもいかず，昭和３年に日本初のテレビ公開実演を行った実演室が，仮のホームルームとして与えられた。しかし当然のことながら実演室を，他のクラスや大学が，実演室本来の使用目的で使う時は，我々は実演室を使用できず，その使用しているクラスのホームルームを使って授業を受けるという，あたかもジプシー民族の放浪生活さながらの状態でした。この様な変則授業をしなければならなかった学校当局，特に担任の鈴木治郎先生のご苦労は，顧りみてみると大変なものがあったろうと思うが，当時は，不満を示す者もいた。しかし最終年次は，新築の小石川校舎で，見るもの触るもの全てが新品という，恵まれた学園生活を送ることができ，２年次の苦労も水泡に帰したのです。私はこの様に，神田・小石川という２つの校舎で，勉学できた果報者といえるでしょう。

昭和17年の卒業生のなかには，還暦を迎えられた方もおられる一方，今年の卒業生は18才の若人と，同窓会員同志の年令差は，親子程の隔りがありますし，現実に親子会員という方も多数いらっしゃいます。丁度私の年代が中間位置にあり，昭和58年より第７代同窓会長に就任し新旧のパイプ役として，又同窓会の推進役として微力を尽している次第であります。当同窓会を初め校友会，他同窓会にあっては，若年層の参加が少いというのが現状で，共通の悩みとなっております。今後は，若い方々にも多数参加頂ける様に同窓会活動を計画せねばと，思慮している昨今で，卒業生の皆様のお知恵を拝借したいと思います。勿論先輩の方々にもより一層積極的に参加して頂き，先輩後輩の絆を深め，卒業生全体の発展と，高等学校を初めとする学園全体の発展に寄与することが，同窓会活動の本質と考えます。母校が発展し著名になるということは，とりもなおさず我々卒業生が著名になることに外なりません。会員の皆様全員の積極的ご参加を重ねてお願い申し上げます。

最後に，記念講演，記念誌発行などの記念事業を計画推進して頂きました，記念事業委員の皆様に深謝の意を表し，ご挨拶に変えさせて頂きます。

座談会

石川明さんを囲んで

日　時：昭和60年４月12日
場　所：小石川校舎校長室
出席者：石川　明　テキサスインスツルメント社社長　（31年卒）
吉田　宇一　東京電機大学高等学校校長
佐藤　吉弥　〃　元教諭
印宮　登　〃　同窓会会長　（41年卒）
司会：柴山　茂男　編集部　（30年卒）

《石川明氏略歴》

昭12・8・12	千葉県野田市に生まれる
31・3	東京電機大学高等学校普通科卒業 （担任：佐藤吉弥先生）
35・3	東京電機大学電気通信工学科卒業 （同期：里見先生ー理工学部産業機械工学科）
35・4	新日本窒素肥料（株）〔現チッソ（株）〕入社 その後チッソ電子化学（株）〔現日本シルコン〕を経て
43	日本テキサス・インスツルメンツ（株）入社
54	取締役に就任
57・9・23	代表取締役社長に就任 日本人として初めての社長

《日本テキサス インスツルメンツ株式会社 概要》

創　　立：昭和43年５月24日
資 本 金：50億円
社 員 数：4,500名（1984年４月現在）
事業内容：1.各種集積回路（IC,LSI,超LSI）の開発・設計，製造販売
2.ICソケット・コネクタなどの制御機器の製造販売
3.コンスーマ製品をはじめとするエレクトロニクス製品の設計
本　　社：東京都港区北青山３-６-12（青山富士ビル４Ｆ）
工　　場：鳩ケ谷工場・日出工場・小山工場・美浦工場

◇はじめに

司会　今日はお忙しいところをどうもありがとうございます。特に石川さんには，昨日ですか，アメリカから帰られて，今日はまた遠くからおいでいただきましてどうもありがとうございます。

今日の座談会は，同窓会の25周年の記念の中で記念の冊子を出すことになり，そこへ載せさせていただこうということで計画したものです。

印宮　先般，佐藤吉弥先生のほうからお願いしたと思いますが，今年，高等学校の同窓会ができてちょうど25周年になります。そこで，卒業生の方でどなたかいい方に講演していただきたいと考えていたわけです。そこへ，「工学情報」の58年３月号でしたか，それに石川先輩の記事が載りましたので，これが私たちの理想とする講演者でないかと思いまして，直接お願いしても断られるとまずいので，佐藤先生を通してご講演をお願いしたしだいです。石川先輩には，快くお引き受けいただきましてありがとうございます。

せっかく石川さんに講演していただきますので，今度

は，講演の日に配るものに何か講演者のご紹介をするようなものがあったらよろしいんじゃないか，という話が出ました。そのときに，25周年を記念して25周年記念誌をつくろうということになっていますが，そこへご講演の原稿もしくは人物紹介ということで座談会みたいな記事をどうだろうかと計画し，お願いしたわけです。

したがって，高等学校の卒業生および在高生にも配布する予定ですので，高校，大学を通じての学生時代の思

い出を主に，あとは後輩たちにちょっと厳しい言葉でも述べていただければと考えています。

◇高等学校普通科時代

司会　先に印宮会長のほうから，小冊子をつくっているメンバーに座談会のテーマを考えてくださいという依頼がありました。3人ほどメンバーがいて，あれこれ考えたのですが，立派な言葉か何か出しますとなかなか難しくなってしまいますので，ちょっとまずいだろうということになったわけです。そして，在校当時の石川さんの話からスタートしていただくのがふさわしいのではなかろうか，という結論になりました。ですから，そのような雰囲気でお話しいただければありがたいと思います。

佐藤先生は，石川さんの組主任をなさっていたと聞いていますので，まず佐藤先生のほうから在校当時の石川さんの思い出からお話しいただけますか。

佐藤　私が受け持ったのは2年，3年で，1年生のときには，大学のほうに替わられた宮坂亀雄先生が受け持っていたんですね。野球でいえば宮坂先生が投げて，私が継投したわけで，そのコンビが一つのクラスをつくるのによかったのではないか。宮坂先生は，キリスト教の牧師さんでいらっしゃったし，今でいえば受験勉強をさせてどこかに入らせる。というような狭い考えではなかったんです。

そのような考えを引き継いで，ことに理科系が志望でみんなは来ているわけでしょう。しかし，宮坂先生は英語，私は国語ですから，国語が好きになると困るなあということは，正直な話，ありましたけどね。（笑）しかし，理科系がスムーズにいったわりには，やはり国語的なものが必要だな，大事だなと考えもしました。

その中でクラス全体が，卒業させた学年も少ないのですが，とてもいいクラスだったなあという印象がありますね。それは，石川さんだけではなしに，石川さんの友達が非常によかったのではないでしょうか。中沢とか黒岩，石川彰男，石川が2人いたんですが，そういったグループというのか，個性がみんな違っていました。同じような個性じゃなくて，みんな違うのがまとまっていて，そのほかにも個性的な変わった連中が和をなして一つのクラスをつくっていたわけです。

（石川明社長）

そのクラスがうまくできていて，そのクラスの中に石川君がいたことが，非常に大事だったなあと今もって考えています。あのころ私は教務課をやっていたので，あまり生徒の面倒をみていなかったのですよ，逆に。だけど，そういう点ではさっき申し上げた宮坂先生の影響を十分受けていて，それを私が引き継いだだけだということと，クラス全体が非常によかったし，クラス全体の中で石川君が育った，友達の中で育ったというか，そういう点が非常に大事だという気がします。

石川君は，目立たない生徒でした。個人としての思い出はありますよ。杉並の家にたびたび遊びにきましたから。ほかの生徒も来ているし，個人的な思い出はたくさんありますけれども，いわゆる乱暴だったとか，成績が抜群によかったということではなしに，着実だったというか，考え方が緻密でしたね。そういう思い出があります。

石川君は覚えているかどうか，映画か何かを見てきて，映画の話を私にしたことがあるんです。感心したなあ，すごいなあという話をしてくるわけですね。何を感心しているのかなと思ったら，映画の中のシーンで，脱獄か何かをするのに少しずつ穴を開けるところがあって，少しずつ丹念に穴を開けて，兵隊か何かわからないけれども，獄房から逃れるところを，あれはすごいなあと言って感心していました。

それがあったから，何かを繰り返し繰り返し丹念にやるような緻密さに，当人が感心しているというのは，見方が当たっているなあと思いました。学生時代にずば抜けて偉かったとか，乱暴だったとか，そういうことはありません。非常に着実で努力家であり，緻密だったということかな。

また，友達のことも考えて，いうなれば人の陰で一生懸命やった生徒でした。表立たないで，陰でクラスのことを一生懸命やっているという型の生徒でしたね。

印宮　映画のお話は，ご記憶にございますか。

石川　ええ，ありますね。

印宮　じゃあ，やっぱりいま佐藤先生がおっしゃったようなことなんじゃないですか。物事を一ぺんにパッとやるのではなく，ずっと長い目で見て計画的になさるという……。

石川　佐藤先生はちょっと褒め過ぎで恐れ多いのですが，友達はよかったですね。いま佐藤先生がおっしゃったような人たちとは，今でもしょっちゅう行ったり来たりしていますけれども，あの高校生活は非常に楽しかったと今でも思っています。

その中で，じゃあどの勉強を一生懸命やったのかなと思うと，実に残念ながらあまり記憶がないのですが，宮坂先生とか佐藤先生とか，先生と遊んだというと語弊がありますが，先生のところへ行って話をしたり，奥さんにいろいろ御馳走をつくってもらって食べたり，そういうのが非常に楽しかったような気がしますね。

今の高校生はどうなのか，知りませんが，どちらかというと先生方と親しんだという感じがします。私ども，普通科だったせいもあって，電気科の先生と親しんだという記憶はあまりないんだけれども，宮坂先生とか大久保先生，佐藤先生とか……。

佐藤　大渡先生とかね。

吉田　総体的には今のほうが，先生と生徒の触れ合いは減っているのではないでしょうかね。

佐藤　そうですね。

石川　それは，どうなんでしょうか，生徒のほうが受験勉強や何かで忙し過ぎるのか，それとも先生が忙し過ぎるのか。何か変わっているんでしょうか。

佐藤　はっきり言いますと，今の先生方は受験のための勉強で，知識を教える。また，生徒もそれを求めているし，父兄もね。先生方も，受験の問題集を解いてやるとか，勉強を教えることから言えば，それは先生の仕事としてはいちばんやさしいわけなんです。受験勉強というのは知識だけですからね。

ですからそれは，大学でも出ればできるようなことで，予備校の先生だろうと，大学を出ればできるようなことなんです。しかし，高等学校，中学校の先生は大学を出ただけでは教えられないでしょう。ホームルームがいちばん苦手でね。そういう点で，先生の考え方が違ってきているというのはあると思います。

（吉田字一校長）

今の教育の病巣に触れるような話になってしまいましたが，そういう点はありますね。

石川　やはり29年，30年前の先生方というのは，大変だったのではないかと思いますね。自分たちが食うかどうかも大変なところへもってきて，貧乏な生徒ばかりゴロゴロしていたんでしょうから。（笑）そういう意味では，たいへんご迷惑をかけたんじゃないかと思いますけれども。

印宮　お生まれは，確か野田のほうでしたね。

石川　ええ，生まれたのは野田です。

印宮　そうすると，野田から学校へお通いになっていたわけですか。

石川　そうじゃなくて，野田に中学のほとんど3年の夏休みぐらいまでいたんですが，父の勤めが東京だったものだから，父と母は東京に住んでいました。私はおじいさん，おばあさんと野田にいたわけです。

中学3年ぐらいまで野球部で野球を一生懸命やっていたのですが，ふっと気がついたら周りにだれもいなくなってしまったんですよ。（笑）毎日，私の家に野球部の連中などが遊びに来たり，泊まったりして，中学1年，2年，3年ぐらいまでやっていたんですが，ふっと気がついたらみんないない。なんでいなくなったのかと思ったら，どうも高校受験勉強というのがあって……。

佐藤　そのころからあったわけですね。

石川　ええ。それで，夏休みぐらいになると，よその親は勉強しろとか，やっていたみたいですね。（笑）ところが私はちょっと気がつかないで，どうも遊びに来なくなっちゃっておかしいなと思いましたね。それで考え込んでしまって，親父に手紙を出して，おれも田舎にいてこんなことではだめだから，東京へ行かしてくれということで，親と一緒に住むようになったわけです。

それが中学の夏休みからですから，東京へ来て，港区の愛后中学校に入ったけれどもすでに時遅いわけですね。それで，都立高校を受験して，結局簡単に落っこちてしまいました。ですから，電大高校に入ったのは実にラッキーだったというか，電大高校というのはいいのか悪いのか，そんなことも全然わからない。親も，私なんか暴れん坊で田舎から来たという程度で，あまり教育もなかったから関心もなかったでしょうが，入学案内というのか，そういうのをたまたま見たのが実に今日とかかわりがあるので，（笑）不思議ですねえ。

印宮　私は，その当時から電機大学および電機大学高校というのは高名だったのかと思っていたんです。野田からでは相当の時間をかけてお通いになって，大変だったんじゃないかと思っていたんですが，（笑）今のお話を聞いてよくわかりました。

吉田　工業の生徒はよく家へ遊びに来たりしていて，ぼくらもよく触れ合いはしましたけれども，総体的には，普通科は戦後にできて，いわゆる新制高校になってからですね。でも，工業のほうは工業高校からずっと継続してきてましたでしょう。ですから先生方の姿勢の中にも，普通科を受け持つ先生方の姿勢に非常に新鮮なものがあったのではないでしょうか，育てるという。本当に23年から普通科をつくって31年というと，まだ10年にもならない過程の中ですから。

石川　まだ7，8年ぐらいですね。佐藤先生は，23年に高校ができたというと，何年ぐらいに入られたんですか。

佐藤　21年ですね。21年に私はまだ大学にいたんです。戦後，大学に入り直してね。戦前の卒業ですけれども，戦争が終わってまた入り直したわけです。それで，21年の10月か11月ごろこちらに講師に頼まれてきていまして，それからずっと講師で……。

◇大　学　へ

司会　いま学校へ入られたお話が出ましたが，普通高校を出られて東京電機大学へ入学されたわけですね。先

ほどちょっとお話が出ましたように，当時は試験があったということで，佐藤先生から見られて，今ですと大学入試などは父兄も先生も進路指導とかいろいろ大変なんですが，石川さんの受験のときはどうでしたか。安心してパッと……。

佐藤　石川君については，勉強が本当に好きみたいだったね。だから，どこを受けたらいいとか，そういうことは全然心配しなかったです。私はほかの者も心配しなかったんですが，受験勉強ということをホームルームでもあまり言わないし，そういうことよりも生徒が，受験にかかわりのないようなことをやるので，そっちのほうが心配でしたね。

というのは，３年の文化祭のときに，当時，文化祭と言っていたでしょうか，山本有三の『同志の人々』を上演すると言うんです。それは，役者はたくさん要るし，照明とか舞台装置とか大変なんです。３年でそれをやると言うでしょう。ですから，腹の中では心配だなあと思っていましたね。（笑）

一部では，それにかかりっきりで一生懸命になっている生徒もいますけれども，全体の雰囲気がそれをやるような，また，それをみんなで支え合うようなところがあったんです。それが，３年のときですよ。

それでいながら，めいめいが受験勉強もやっているわけでしょう。また，学校の授業も真面目に聴いている。そういう点がありますから，やめろとも言えないしね。（笑）私に演出を頼みに来たものですから，私が演出をやったんですが，いま考えるとやらせてよかったなと思います。というのは，生徒全体のバイタリティーというのか，生活力みたいなものがそれで育ったんです。特別の勉強をがむしゃらにやらなくても，そういうことに精力を向けるということが，受験になるとそれがまた別な力で動けるわけです。

そういうことでいま反省してみて，やめろとか何とか言わないでよかったなあ，ああいうことが大事なんだと思います。綿祭とか何か，どういう名前だったかわからないけれども，大学と一緒にやるので，昔，隣の区役所の２階か３階の大きな広間で演劇をやったんです。そして，クラス全体がそれにかかわったという点で，そういうやり方が今でも大事じゃないか。それを抑えて勉強をやれということではだめだなあ，生徒の生活力を認めなくてはいけないなあと思います。そういうことを思い出しました。

印宮　時期的には９月か11月ごろやるわけですね。

佐藤　そうだと思いますよ。

印宮　そうすると，いわゆる受験にとってはいちばん大事な時期ですね。（笑）

吉田　あのころはまだ大学と一緒でしたから，電機展という展覧会は別にあって，高校は文化祭を別にやっていましたね。

佐藤　そうですね。九段会館から借りたりして。

吉田　そうそう。あとは文化服装学院とか，よその学校の講堂を借りたりしてやっていました。そういう活動は今より……。

石川　先生方が，受験勉強だとか何だとか，そういうことはあまり言わなかったですね。本当に。だから，大学へ入れるのかなあという危機感もないし……。（笑）

佐藤　授業は非常に熱心でしたよ。かえって先生方が困られたぐらいです。大学の先生クラスの，数学では宮本先生，社会では大渡先生，英語では宮坂先生，大久保先生，絵のほうでは河部先生がいたでしょう。いま考えても，いい先生に恵まれていたなあという気がしますね。

吉田　そういう先生らの下で，生徒も今よりもたくましさというのか，１本骨が通っていたというのか，非常に個性を持った生徒が多かったのではないでしょうか。それと，今はしたい放題のことをしているんだけれども，集中力とか，そういう面では欠けている面があって，当時と比較すると非常に目立つものがありますね。

ですから，そんなに受験の心配もしないし，意識もしないでも，試験を受ければ入っていかれたわけでしょう。

◇大　学　生　活

司会　人の噂で，はっきりしたことでなくて失礼なんですが，大学へ入られてから英語研究会などでだいぶご活躍されたという話を聞いていますが。

石川　どういうわけか知らないんですが，私，高校のころから英語というか，英会話というか，そういうものに関心がありまして，高校でも授業が終わると日本通訳協会とか通訳養成所，カルチャーセンターとか，そういうところへ行って，11時ごろ家へ帰ってそれから勉強するとか，毎日そんなことばかりしていました。

大学へ入ってみたら，電大にはＥＳＳがなかった。ので呼びかけて，１年のときにＥＳＳをつくりました。そのときに，先生もいない，教材もない，何もないというので，テープレコーダーを借りてきて私が先生になってみんなを教えたりして，やったんです。それが，ＥＳＳのスタートになっています。

（佐藤吉弥元教諭）

印宮　そうしますと，外資系というターゲットがあったわけですか。

石川　いや，そういうことは全然ありませんでしたけどね。

印宮　でも，通信工学科を受験されたのは，将来展望的に何かあったのではありませんか。

石川　いやあ，強電というやつは，下手に触ると死んでしまうから，あれはどうも怖いという気がありましてね。（笑）それよりも弱い電波のほうがいいというか，そんなところじゃないでしょうか。

印宮　あの当時は，電子工学科というのはまだなかったんですか。

石川　電子工学はなかったですね。

吉田　電気と通信ですね。

石川　そうですね。強電というのは，今でも高圧のバチーンと……，電気の実験なんかすると。（笑）ですから，弱電のほうがいいですね。

吉田　そのころの語学が，いまずいぶん役に立っているでしょう。

石川　そうですね。

司会　そうやって研究会をつくられたというのは，教科書で勉強するのとは違って，非常に実践的な感じなんでしょうね。カルチャーセンターや何かに行かれて……。

石川　考えてみると，大久保先生とか宮坂先生の影響があったかもしれませんね，何となくそうなったというのも。

印宮　最近では，高校生のホームステイをやっているんですよ。あれは，２週間ぐらい行くんですか。

吉田　いや，１か月行きます。

石川　アメリカへ行くんですか。

印宮　ええ，これは，４年ぐらい前からでしょうか。当時，そういう制度があれば真っ先に応募なさったでしょうね。

石川　いや，金がないから行けませんよ。（笑）

うちは貧乏だったものですから，兄弟も６人いて，お金はないし，３年生で修学旅行へ行くというときにお金がなくて，佐藤先生にお願いして修学旅行を辞退させてもらったこともあります。そのとき，佐藤先生は何と言うかなと思ったんですが，行かないでいいよと言われたのは非常にありがたかったですね。

親が希望して大学へ行かせてくれるという，それを実現することのほうが修学旅行へ行くよりも重要だという気持ちでした。親が，お金がないとけんかをするでしょう。そういうのを，寝ていて聞いてしまうわけです。しんどくなりましてね。あれは，非常に貧乏な時代だったですね。

佐藤　そういうことが受け持ちに相談できるということが，よかったですね。今の話にもあったように，両親が話しされているのを石川君が隣の部屋で聞いたと言うんです。だから，修学旅行をやめたいんだがどうでしょうと相談に来たんです。私も，ただし親にはお金がどうかということでやめるというのではなしに，勉強が遅れているから……。

石川　大学へ入れないという理由にしてね。

佐藤　それを両親に話してみなさいというアドバイスをしたことを，覚えています。それは，石川君の思い出の中でも強烈ですね。その相談を受けて，ああ，こういう生徒だったかなということで。

石川君に限らず，みんなめいめい苦しんでいたんですよ，それぞれの家が。いわゆるハングリーですね。それが勉学の土台になっているわけで，そういう点がやはり今と違うと思います。

◇転　　職

司会　いま大学の話で英語のことが出ましたが，35年に卒業されて，そのあと新日本チッソですか，それからチッソ電子科学を経られて日本テキサス・インスツルメントに入社されたわけですね。それが43年と伺っていますが，43年というのはちょうど日本Ｔ・Ｉが設立された年ですから，非常にいいチャンスに入社されたのかなあという想像を私どもはしていましたが，そのへんのいきさつなどをお話しいただけませんか。

石川　日本テキサス・インスツルメントに入る以前に，非常に悪い経験というか，それがありまして，どうしても前の会社を辞めたいという事情のほうが先で，日本テキサス・インスツルメントに入りたいというのが先じゃないんです。

いわゆるチッソというのは，皆さんもご存じのように水俣病で大変な問題を起こして，世間的にたいへん大きな問題になったでしょう。そういうことで，社内的に大変なプレッシャーというか，圧力がありまして，水俣病が実際に世間に出る前に，こういうことは社外に言ってはいけないとか，何だかんだと冊口令みたいなものがあるわけです。どう客観的に考えてもそれはまずいんじゃないかとか，いろいろな気持ちがあって，これはどうも自分のいる会社じゃないなという積もりというか，それがだんだん募ってしまったんです。

チッソには，チッソ電子を含めて７年いたのですが，

その間，テキサス・インスツルメントがシリコン・トランジスタを発明してＩＣを発明し，電気材料でもシリコン・クリスタルとか，そういうものをつくっていただけです。私も，チッソ電子でシリコン・クリスタルをつくっていましたから，もろもろのそういう材料を手に入れて比較したり，教科書といえばテキサス・インスツルメントの教科書を基にして技術的な勉強をしたりしていました。

（印宮同窓会々長）

ですから，もし日本に来るんならでき得ればその会社に入りたいなということはありましたけれども，辞めるきっかけは，どちらかというと，外部に公害だとか何だとかを及ぼすことに対するいやな気分というのがあって，そっちのほうが強かったですね。

入ったのは，それができるちょっと前ぐらいに，アメリカに，とにかく日本で仕事をするなら私は入りますよと言いまして，たまたま日本に来ることになったときに連絡があったので，辞めたわけです。

印宮　やはりヘッドハンティング的な要素で引き抜かれたわけですね。

石川　ヘッドハンティング的な要素よりも，それが来る前に，私のほうからその意志を伝えていましたからね。ヘッドハンティングされるほど，バリューも何も当時はなかったわけですから。ただ，一員として参加しただけです。

印宮　いえいえ，そうではないでしょう。２月末でしたか，アメリカへ行かれましたね。ちょっとその後に新聞を見ていましたら，ジャック・キルビー博士がつくば博に世界初のＩＣを展示するということで，それをお迎えに行かれたわけですね。

私も，子供にせがまれて30日に行ってきたのですが，ほうぼう込んでいたけれども，何はともあれまずアメリカの世界初のＩＣを見てこなければいけない。今日お会いするということもありましたので，見させていただいたのですが，今から見ると，こういう言い方はたいへん失礼なんですが，大したことないですね。今の256キロのメモリーだとか，そういうものに比べると。でも，当時は画期的なものだったんでしょうね。あれが，20何年前でしたか……。

石川　27年前です。要するに一つのアイディアが，30年たっても世の中の中心であるという発明は，ないんですよ。

印宮　そうらしいですね。

石川　しかも，同一金属の中にいろいろな部品を入れ込んだら，お互いが完全にショートしちゃうわけですから，一つのメタルの中にダイオードとか抵抗を入れ込むという発想自身が，ふつうは起きないでしょうね。それを考えたというのは，キルビーさんにちょっと違った力があったのでしょうね。

司会　キルビー博士は，テキサス・インスツルメントの顧問ということですね。

石川　ええ，今は技術顧問です。

司会　発明された当時は，Ｔ・Ｉの……。

石川　一介の技術者ですね。

日本に来られたときにたくさんの新聞社の方々とのインタビューがあって，私はずっとそれにおつき合いしていたのですが，皆さん，一体どういう環境の中でそういうすばらしい発明ができるか，ということに非常に関心を持って，質問するわけです。ところが，キルビー博士がおっしゃったことは実に単純でして，発明というのは鉛筆と机があればできるよという答えにはちょっとびっくりしました。（笑）

私どももエンジニアを200人ぐらい集めて，キルビー博士に講演をしてもらって，質問をさせたんですが，うちのエンジニアも，どういう環境ならそういうすばらしいアイディアが出るかというような質問を盛んにするんですね。一つの意図として，会社の設備・環境なり発明する環境がふさわしくないんじゃないかということを言いたいんだろうけれども，キルビー博士は，実に鉛筆と机があればできるということで，何なら今日午後からでもしてみせましょうかという感じでしたので，記者の方も驚いていたようです。

いわゆる発明というのはいくらでもできる。できるけれども，問題は有用な発明かどうかということ，つまり有用か有用でないかが重要であって，発明できるか，できないかというのは大した意味がない，ということを言っていました。

たまたまキルビー博士は，Ｔ・Ｉに入って３か月ぐらいでそれを発明したわけです。しかも，７月の半ばにそれを発明しているんですが，会社へ入ったばかりだから慰労休暇の資格がない。だから，全員夏休みで工場も会社も止まっているんだけど，キルビー博士は出頭せざるを得なかった。そういうことで，たまたま静かだったのかどうか知らないけれども，（笑）せいぜい鉛筆と机とちょっと静かなこととか，そのくらいの条件があればできるんだよという話でした。

司会　ちょっと思いがけない話だったかもしれませんね。

印宮　でも，やはり頭の構造がどこか違うんでしょうね，われわれ凡人に比べれば。（笑）考え方が違うんでしょうね。

石川　結局，今もつくり方は同じですから，それを（発展的に）使わないとできないわけですね，ＩＣをつくる上で。

◇日本Ｔ・Ｉ社の戦略

（司会者 柴山氏）

司会　いま鉛筆と紙と机というお話が出まして，それとは違うかもしれませんが，キルビー博士が来日されていろいろ講演なさったときに，日本テキサス・インスツルメントでつくば万博の会場跡に研究開発センターを造られるという発表が，石川社長からありましたね。このへんの広がりについて，ちょっとお話を聞かせていただければありがたいと思いますが。

石川　私ども日本テキサス・インスツルメントでいいますと，大分県の日出工場がバイポーラＩＣを中心に事業をやっています。

また，マイクロプロセッサーとかＭＯＳロジックのＩＣは鳩ケ谷工場が中心になってやっています。メモリーの２５６とか６４Ｋ，２５６Ｋ，ＣＣＤイメージャーなどは，茨城県の美浦工場が中心となっております。

そして，それぞれの開発研究はそれぞれの事業部でバラバラに，３か所に存在していまして，もっと力を出すためにはそういう技術者が１か所に集まって，さっきの話じゃないですけれども，もうちょっといい環境で研究開発をしたほうが，効率がいいだろうということが一つです。

もう一つは，生産事業部の中の研究ということでは，どうしても先のほうを見た研究開発はなかなか難しいわけです。いかにして今月もうけるか，今年もうけるかという話で，エンジニアが引っ張られてしまうんですね。ですから，今日明日の利益ということだけでなく，もっと先を見たものをということで，あの万博の土地は非常に整備されたいい土地柄でもあるし，あそこはいわゆる国の機関その他の研究機関が多く集まっているところでもあるので，外部環境もいいでしょう。

そういうことで，ちょっと高いのですが，あそこにしようと考えているわけです。

司会　産業のコメというような業種で，いろいろと競争も激しいところでしょうから，先を見た開発というのは非常に大切なものなんでしょうね。

石川　とにかく常に新製品というか，新しい進んだ製品が出せないと，いずれにしても負けてしまうわけですね。あるものを開発するのに２，３年かかりますから，256Ｋとかダイナミックｒａｍを開発するとなると２，３年かかるし，１メガビットのダイナミックｒａｍを開発すると２，３年かかるし，少なくとも２，３年前にはスタートしなければいけない。しかも，同じ1メガビットのダイナミックｒａｍでも，客の欲しい性質とは違ったものを開発してしまうとまた売れないし，その前にマーケットリサーチが必要なので，５年ぐらい前からスタートしないとタイミングよく出せないわけです。

しかも，市場のニーズによって開発を早めたり遅らせたりもしなければなりませんので，開発というのは非常に重要ですね。

司会　いまお客さんのニーズというお話が出ましたが，日本もＩＣを使うところが非常に多いけれども，アメリカはもちろん先進国ですから，お客さんのニーズも多様なのではないかと想像するのですが，本社がアメリカで，そういうマーケットに関する情報は非常に強いというのが，日本Ｔ・Ｉの強みでしょうね。

石川　情報が早く入るということ，あるいは十分な情報が入るといったことは，テキサス・インスツルメントの場合は世界30か国に60か所ぐらいの工場なり，オペレーションというか，拠点をもってやっていますし，しかもサテライトを使って，ワールドワイドの世界中のネットワークで，リアルタイムで情報交換をやっていますから，私どもは大分，東京，鳩ケ谷，日出，茨城の各エンジニアのデスクにあるコンピューターからでも，リアタイムでワールドワイドにアクセスして，情報交換しています。

ですから，ヨーロッパなりアメリカ，あるいはメキシコなり，世界中のどこがどうなっているかということが，瞬時にしてわかるんです。お互いにコミュニケーションできるようになっていますから。

そういう意味では，まず速いということと，一つだけの情報ではなくていろいろな情報を豊富にインプットして，そこから判断できるというところは，あると思いますね，われわれ日本でやっていて。

印宮　そうしますと，電電公社が株式会社になったということで，いま電話機および通信業界が非常に活況を呈しているといいますか，いろいろ変遷していますが，今のお話を聞いていますと，Ｔ・Ｉそのものが電電に代わるような機構をお持ちになっているようですね。

石川　ええ，相当前から持っています。

印宮　今度，日本でも衛生を打ち上げてやるとか，やらないとか，いま騒いでいますが，石川社長にとっては何を今さらという感じではないですか。

石川　ただ，そういうインテリジェンスがあるということと，そういう情報を使ってうまく仕事ができるかどうかというのは，話が別でして，いくら情報が入ってきても，その情報をうまく取り入れて有効に仕事をしきら

なければ，早く入ってきたことの意味がないでしょう。あるいは，情報はあまりなくても，客のニーズを常につかんでいるということも情報ですからね。

どちらかというと，日本の産業なり，特にエレクトロニクス産業は，先進的な新しいアイディアは日本自ら出しきれないわけです。なぜ出しきれないかというと，アメリカやヨーロッパのお客さんが何を買いたいかということを手に入れてから，仕事を始めますでしょう。だから，ずっと遅れているんですね。アメリカやヨーロッパのお客さんが必要だと感じたときには，アメリカやヨーロッパではすでにそういう試作なり，そういう品物の生産がほとんど始まっていて，もっと安く手に入らないかとか，あるいはもっと品質のいいものにならないかというところへ日本のメーカーが行って，どうだ，こういうのはつくれないかということになるわけです。それが，日本に対する需要なんですね。

開発が終わるまでは彼らも秘密にしていますから，それが終わって，いよいよ彼らが生産に入りかけるころになって販売を開始する。ところが，量が足りない。そこへ，日本の人たちがセールスに行っていて注文を取ってくる。そういうことで，日本の工業なり産業なりがそういう生産を開始する。ですから，日本で生産開始したり，ビジネスになったりするときは，すでに彼らがスタートしたよりも5年とか3年遅れているんですね。

ですから，インベンションとか新しい産業のクリエーションというのは，どうしても向こうでスタートしてしまうわけです。それは，日本が輸出依存型の国だから，どうしてもそうなってしまうんですね。

よく新聞記者の方とか皆さんが，新しいイノベーションとかアイディアがアメリカのエンジニアから出て，日本のエンジニアはなぜできないんですか，それは環境のせいですか，何のせいですか，頭が悪いんですかとか，いろいろ聞くんですが，頭が悪いわけでも創造力がないわけでも何でもないんです。

要するに日本独自のニーズがあって，日本の人が日本の会社に，どうだ，こういうのをつくってくれないかということになれば，それで開発を始めるから，そこで発明が行われるわけです。そういうニーズがアメリカ，ヨーロッパにはなくて日本に先にあって，発明され，それが社会にとって有用なものならば，結局，日本で発明されて，アメリカやヨーロッパに伝わっていくというかたちになるんですよ。

しかし，どうも日本の産業形態そのものが輸出依存型ですから，向こうからニードを仕入れてくるわけです。それは，発明，創造ということからすると後がまになってしまうんですね。今は貿易摩擦で大変な問題になっていますが，国内需要を喚起して，要するに国内で産業バランスがとれるようにしなさいというかたちに，日本の産業界が変わって，もっともっと日本の社会なり国民のニーズのための産業活動といいますか，それが盛んになれば，おのずと日本のユニークな発明はできてくるだろうと思います。

ところが，われわれが生まれてから今日まで，親父とか先生方から教えられてきたことは，日本には何もないからとにかく原材料を輸入して製品を輸出させていただいて，買っていただかないと食っていけないんだということばかりでしょう。ですから，国民総生産が輸出向きになってしまっているでしょう。

戦後40年もたってもまだそれをやっているんですから，頭の切り替えをしないとだめなんですね。（笑）

司会　頭の切り替えというお話が出ましたが，日本テキサス・インスツルメントというとアメリカの本社もありますので，いろいろと広いところに関係されてきた経験から，そういうお話になるんだろうと思います。

43年に入社されて，54年に取締役，役員になられ，57年9月に取締役社長に就任されたと伺っていますが，日本テキサス・インスツルメントではどういうお仕事を歴任されてこられたわけでしょうか。

石川　私が日本テキサス・インスツルメントに入ったときには，生産企画，要するにどういうＩＣをいくらつくってどこへ納めるかという，いわゆるプロダクション・プランニングと英語では言うんですが，その仕事をやりました。その後，会社に組合ができたんです。全国金属系の共産系のたいへんタフな組合ができて，製造がちょっと混乱した時期が，日本テキサス・インスツルメントができて2年後ぐらいにありました。ですから，製造現場のほうが混乱状態になってしまったものですから，私はそれから製造のほうに回されて，生産現場に入り，製造部長をやりました。

その後アメリカの，特にバイポーラロジックの生産拠点であるヒューストン工場に行き，そこにしばらくいました。そのあとは，鳩ケ谷工場が狭くなってしまって，日出工場をつくるというときに呼び戻され，日出工場の建設から始めて日出工場長をやりました。その後，日出工場，鳩ケ谷工場の両方をカバーした生産事業部の部長をやりまして，それから役員になったんです。

◇経営理念について

司会　先ほどちょっとお話のあった生産現場のほうの方が取締役，役員になられるケースが多いと思いますが，堅い話じゃなくて，そういう責任ある地位といいますか，物事を解決していくに当たって，出身学校と言ってはあれかもしれませんが，学校あるいは学校教育へのご注文みたいなことはございましょうか。

先ほど佐藤先生のお話によると，31年の普通科は非常にバイタリティーがあって，すばらしいクラスだったようですが……。

佐藤　私の考えからいうと，石川君が家に来たときにチッソを辞めたいという話を聞いたんです。チッソはこういうことだというんですね。それは，給料が高いからよそに替わる，転職するというんじゃないんです。そのとき，新しい会社のことは私は全然知りませんでしたし，そういうことじゃなくて，チッソの会社の様子を聞きましたよ。

石川君が現在の地位にいるというのは，まず企業の中で働く人間として，箱口令みたいなこともあるような会社の中にいて，その会社を出て新しい職を見つけようという考え方，思想みたいなものが，心の支えになっているということですね，一つは。ただ，若いときの気持ちとしては，そういうことができ得るし，またでき得ないものもあるんですけど，あのときの決意としてその会社を出ようという人間としての生き方が，今日をなしているんだなということを，私は考えますね。

1年目じゃありませんからね。何年と勤めているわけでしょう。それを辞めるというのは，企業人としてはなかなかできにくいことですよ。しかし，それをあえてやったというのは，石川君の考えの中にこういう順序があったんじゃないか。

石川君の友達の中で平林という生徒がいたんですが，彼は電大に不合格になって東海大学に入ったんです。その平林が家に遊びに来たときに，お前は電大に入れなくて残念だったろうけど，高等学校で私が受け持って，何年かかってどういうことを学んだかと意地の悪い質問をしたんです。そうしたら考えていて，一つは思想，人間としての生き方ですねと言うんです。それから？と聞くと，その次は体を丈夫にすることかなあと言っていました。平林というのは，遠足のときに神田から横浜まで歩こうなどということを提案した生徒なんです。先生は体，体と言うから，歩いたほうがいいと言いましてね。

そして，お前，原子力はどうしたのと聞いたら，あっ，原子力は3番目ですと言いました。つまり，知識は3番目だと言うんですよ。学校で学んだのは，一つは思想，2番目は体で，3番目が知識だというわけです。何のための知識なのか。平林の場合は原子力ですが，何のために原子力を学ぼうとするのか。仲のいい，やっぱり友人の一人ですからね，彼は。

そういう点で，大事なのは人間の生き方であって，石川君のその一つの転機はチッソを辞めたことだと思います。新しい会社が立派な会社で，だからそこへ移るということではなかったわけですから，そういう点が石川君の今日をなしている大変な転機でもあるのではないか。順序として，人間の生き方，体，3番目に通信工学が生きているんだと思いますよ。

それは，宮坂先生なりほかの先生方の学校生活の影響ではないか。スケールが大きいなあと考えていますね。

吉田　ふつうだと相当決断が要ることでしょうからね。いま取締役は，日本の場合は全部日本人ですか。

石川　違います。いま取締役は14名おりまして，そのうち日本人が5名ですね，役員は。

私ども日本Ｔ・Ｉというのは，日本のエレクトロニクス・カンパニーの中でも非常にユニークに，今日までのところ出来上がってきていて，先ほど言ったように組合問題が起きたとき，組合ができるというのは常識なんですけれども，私も，組合はあるのがふつうであると昔は思っていたんです。ですから，何の不思議にも思わなかったんですが，よく考えてみると，なぜ組合が起こって争わなければいけないんだろう。私も雇われているんだし，一生懸命働いているのに，なんでお互いが争わなければならないんだということを，いろいろ考えてみたわけです。

やっぱり経営側，雇う側の立場とか，ワーカーつまり一般従業員側，雇われる側とか，そういう意識が強すぎて，そういう不必要な争いになるんじゃないか。そういうところから，みんなが組合などというのを必要と感じない会社，全従業員が組合が必要だということを全く感じない側の会社がいいということで，そういう努力をずっとしてきたようです。

そのうちに，皆さんが組合費を払うのはばからしい，何のメリットもないというようになりまして，これは日本でも異例ですけど，結局，組合がなくなってしまったんです。何も会社側とか私が組合をやめろとか何とかと言ったわけじゃないんですが，皆さんが要らなくなって，なくなってしまいました。今は従業員が5000人近くいてあれですが，14，5年組合はないわけです。

ですから会社では，何々課長さん，何々部長さんとか，社長さんとか，そういう呼び方はいっさいさせませんし，しません。私も石川さんとしか呼ばれませんし，外部の人しか社長さんとは呼びませんから。

印宮　そうなんですか。（笑）

石川　そういうことは必要ない。あくまでも組織は組織図があってきちんと仕事ができるのであって，私どもではディファレンシエートするとか，分けて感じられるものは何かというと，従業員が胸につけているバッジがありまして，名前が書いてあって写真が張ってあるやつですね。

これは，企業秘密が非常にタイトなものですから，みんな会社では自分の証明書を胸につけているわけですが，そのバッジの色だけが違っているんです。それは勤続年数を表しているだけで，5年未満の人は赤，5年から10年までの人は青色，11年から15年は銀色，それより先の15年から20年は金色というように色だけ変わっていて，

あくまでもこの人は私よりも立派な先輩である，というぐらいの分け方しかないんですね，お互いにわかるのは。

そういうふうにしたり，また，会社というのはあくまでも世間の皆さまのお世話になって伸びていくわけで，工場を造るにしても，いかにしてそれが地元のためになるか，あるいは地元の環境をその企業が率先してよくしていくかといったことをしなければいけない，ということで，われわれの場合ですと，エレクトロニクスメーカーの中でも日本で唯一だと思いますが，完全クローズドシステムの水処理システムで，水はいっさい外へ出さないようにしています。

また，何十億円金がかかろうと，従業員にとって一番すばらしい環境に工場は建てるということ。そういう意味では，国立公園の中のようなものすごくいい環境に工場を建てまして，別府湾が一望に見渡せるし，高崎山とか鶴見山が見えるというところなんです。従業員の食堂から一望に景観が見渡せる。そういう場所をあえて選んで工場を建てたわけですが，ものすごく金がかかってでもそういうことをしたいということでやってきています。

そのために，皆さんもたいへん喜んでくれて，会社に対する誇りというか，愛着というか，そういうものを非常に持っていただいているわけです。ですから，たいへんありがたいことに，日本T・Iに入りたい，入りたいという人がたくさんおりますので，そのように金をかけてやって，結果的にはどうも安いのではないんでしょうか。大変な金をかけて人を募集するところがあるでしょう。うちは，特にそういうことをしなくても履歴書がどんどん山になるわけです。

また，あらゆる大企業が，別府湾にしても霞ケ浦にしてもそうですが，漁業組合あるいは水利用組合に多額の補償金を払わないと立地できないという状況ですが，私どもは雨水以外は出さないわけですから，1円といえども，オブリゲーションというか，負い目を持って補償金を払わなければならないとか何とかということは，いっさいありません。

つまり，少々たれ流しをしてでも今を安くしようということではなくて，積極的に自ら環境を守り，よくしていく。金をかけてでも将来に憂いを残さない，ということでやってきていますので，逆に漁業組合の皆さんとか地元の皆さんからたいへんありがたく思われて，しかも先ゆき公害の心配は全くないわけですから，私も安心だし，従業員の皆さんにも安心して仕事をしていただける。

そういうもろもろの積み上げによって，従業員の皆さんが安心して仕事ができて，それなら組合なんかもう要らないよという発想と，つながっているのではないかという気がしますね。

印宮　思いやりの経営ですかね。

石川　思いやりというかどうか……。皆さんは，私が社長だからどうのこうのと思うかもしれないけれども，私自身の位置づけというのはあくまでも従業員ですから，給料をもらって仕事をしているだけの話で，差はないと思っているんです。たまたま，私に言わせると間違って，お前，とにかく社長をやりなさいよと言われているだけの話で，人生の中ではつかの間のこと，一コマに過ぎないと思っていますから。

ですから，いかにしてみんなが一生懸命，楽しく仕事ができるか。それができれば会社は成功なんであって，それをどのように維持するかということですね。

ところがわれわれの競争相手というのは，日立さんや東芝さん，三菱さん，富士通さん，ＮＥＣさんといったそうそうたるところばかりですから，皆さん，もう横綱でしょう。私はとにかく十両から前頭で，今は胸を貸していただくという立場ですから，そういう意味では仕事は非常にやりやすいですね。相手が大きいですから，相手に不足はございません。

◇後　輩　へ

司会　従業員のための環境の整備とか，周囲に公害を及ぼさないというよりは，周囲の自然や何かを十分取り入れて，工場などを設置されている。そういうところに，経営方針というか，石川さんのものの考え方が表れているのではないかと思って，今の石川さんのお話をお聞きしていたわけですが，このあたりで，後輩に一言，お言葉をいただきたいと思うんですが。

石川　私は，もう一度できれば学生になってみたいなという気持ちが非常に強くて，よく女房や子供に，お前たちがおれを食わせてくれればおれは学生になりたいと言っているんですが，（笑）非常に楽しかったという記憶がありますね。

今の高校生の皆さんは，高校生という時代の思い出というか，楽しさというか，あとで振り返ってそれを持てるような生活を，ぜひしてもらいたいなと思いますね。今の教育のあり方について，先生方の前でうんぬん言うのはあれはなんですけれども，小学生，中学生，高校生，大学生とそれぞれ人生がないといけないと思うんです。つまり，その年代にふさわしいいわゆるライフがないといけないのではないでしょうか。

ですから，高校生らしい生活とは一体何なのかというところを，生徒自身，もうちょっと持つ必要があるのではないかと思うし，学校側も，高校生らしい伸び伸びとし，はつらつとしたその年代にふさわしい人生を過ごせるようなものを確保してあげる，あるいは生徒自身が自らエンジョイできるようなことが，いいんじゃないかと思いますね。

私の子供も中学生ですが，朝6時ごろから起きて勉強したり，一生懸命やっているんですよ。当時の私に比べるとメチャクチャにやっているけれども，全員がそうやっているわけですから，いくらやっても60点とか70点しか取れないというような，（笑）えらい難しい試験になっているような気もするんです。

ところが，会社に入るとオームの法則すらよう使わない。（笑）オームの法則というのはどうだったかなとか，右手の法則はどうだったかなとか，考えてしまうくらい使わないんですよ。ですから，やっぱり高校生としての思い出のある生活というか，勉強をしてほしいと思いますね。

もう一つは，企業という立場からいうと，アベレージ的な人たちがたくさん必要だという感じではなくて，どちらかというと実に枠からはずれたという感じ，これは悪い意味ではなく，また，どうしょうもないだらけたというのではなくて，標準じゃなくて枠からはずれた元気のいいやつとか，メチャメチャに神経質なやつとか，ちょっと変わった人間がたくさん欲しいですね。

印宮　どうも最近は平均化されて，そういう人がなかなかいないですね。

石川　面接したり質問しても，おとなしいですね。

吉田　いま電大あたりでも，何か一つ個性らしい特異なものがあったら採ろうじゃないかという話も，大学の先生との雑談の中では出るんですけれども，なかなか実現しませんでね。どうしても成績の何番以上とか，まだその域を出ないものですから。

石川さんの1か月の活動，たとえばアメリカへ何日行くとか，どの工場へ行くとか本社に居るとか，そういうのは大体どんな割合になっているんですか，年間を平均して1か月に配分しますと。ずいぶんあっちこっちを動かれるわけでしょうね。

石川　東京の本社にいるのは，週でいうと1日強ぐらいのところでしょうか。あとは大体動いています。でも，私の場合は異常じゃないかと思いますね。よその会社の社長さん方は，土曜，日曜はゴルフをしてとか，もっと余裕があるでしょうけれども，私の場合はどちらかというと，先ほど言いましたように皆さんの胸を借りて，これからやらなくてはならないわけです。私は47歳ですが，従業員の中では私がいちばん年を取っていて，それ以下の人しかいませんし，よその一流の会社から比べると10年なり15年なり平均年齢も若いんです。その分，経験が未熟ですし，したがってがむしゃらに動き回らなければいけないんですよ。（笑）

ですから，ちょっと外へ出たり，あるいはお客さんのところとか工場へ行く，外国へ行くというのが，多すぎるかもしれませんね。それは，まだよそさんのように全体が育っていないという面があるかもしれませんし，もう一つは，非常に膨れているというか，会社がどんどん大きくなってきていますから，人材不足という面も相当あるかもしれません。

吉田　大体毎月，アメリカへ行くようですか。

石川　多いときはそうですが，少なくとも隔月ぐらいですね。

吉田　大学などと提携して研究したりとか，そういうことはやっているんですか。

石川　やります。

吉田　最近聞きますと，日本の企業は国内の大学よりも，アメリカのほうの大学に研究費を出してやっているのが，多くなってきているようですね。

石川　私どもの場合は，アメリカはアメリカでアメリカの大学とやっていますから，日本企業の場合，過去はあまりやっていなかったのですが，去年あたりから日本中のいろいろな大学とスタートしたところです。ぜひ電大ともやりたいなと思っていますが，私自身もちょっとサボっているもので……。（笑）

印宮　小学校，中学，高校，大学という学生生活の中で，いちばん印象に残っているのはどの時代ですか。

石川　やはり高校ですね。中学時代の友達よりも，どうしても高校時代の友達のほうが，今のビジネスの社会においてもつき合いが多いですね。小学校，中学時代の友達というのは，あまりにも開き過ぎてしまっていてというとあれですが，高校，大学となるとわりと同じインダストリーにいますので，そういう意味では常に昔話もできますし。

佐藤　石川君とさっきの中沢君は，クラスの中でも仲のいい友達だったんですよ。ところが，卒業してから，この高等学校がよかったと見えて，石川君の弟さんと中沢君の弟さんがこの学校に入りたいと言ってきたんです。そして，その2人が高等学校でまた友達になって，卒業後もつき合っているようです。そういう点で面白いなあと思いますね。そういう伝統，うちの学校を出た方が，また子供なり弟さんをこの学校に入れたいという気持ちは大事だし，そういうことは受け継いでもらいたいですね。

石川　電大高校の卒業生はもう何人になるんですか。

印宮　延べで2万2000名を超えましたね。

石川　大変な数ですなあ。

印宮　大学のほうが4万2000名を超したんでしょうか。今は，普通科が5クラス，工業科が5クラスで，10クラスございます。

石川　高校が？

印宮　ええ，それが3学年あります。

吉田　石川さんのころは，両方合わせて6クラスでしたからね。

石川　普通科は，あの当時何クラスでしたっけ。

佐藤　1クラスでした。

石川　1クラスですよね。

佐藤　1クラスだから，こう言っては悪いけれども，自由に家へ引っ張ったりできましたね。文楽を見せたり，裁判所を見学させたり。上野公園に行って……。

石川　一緒に旅行に行ったり，先生の家に泊まったり，あのほうが楽しかったですね。

司会　工業科から比べると，すごく差がありましたね。

吉田　そのころは，工業科も5つあったからね。

印宮　そのころの普通科は，手づくりの教育みたいな感じだったんですね，お話を聞いていますと。

佐藤　生徒と先生がうまくマッチしていましたね。今の杉並の家も，ふすまをはずして部屋を広げれば一つの教室になるんですよ。造るときに，壁なんかつくらない間取りにして，これは教室にできるなあと思ったものですが，また何十人も来ましたね。

石川　先生はかなわないんじゃないかと思いましたね。（笑）

印宮　奥さんのほうが大変だったんじゃないでしょうか。食べ盛りの学生が大勢来て……。

石川　いやあ，奥さんは先生が好きだから，心配なかったですね。（笑）先生の生徒が来るんじゃ，召し上がれと（他のことは）黙って……。

吉田　大学だって，そのころは2学科だったのが7学科になって，工学部もできて4学科できたし，当時から比べればずいぶんマンモスになってしまいましたね。

石川　そうですね。大変な発展ですね。

吉田　また来年から2学科，大学のほうへ……。

石川　増えるんですか。

吉田　ええ，理工学部が増えるんです。

石川　吉田先生も佐藤先生も，ご都合のよろしいときにぜひ私どもの工場を見に来てください。生徒さんに説明するのにも，最近の先端産業がどうなっているかということを一度見ていただくと，非常によろしいかと思いますので。

司会　今日は，お忙しいところをどうもありがとうございました。

同窓会設立の前後

1　当時の状況

高校同窓会が設立された昭和35年頃は，日本の社会が敗戦の混乱期をのり越えて，豊かな社会作りを目ざして，活発に動いておりました。校友会では，戦争の痛手を受けたり，兵役や，空襲や，敗戦やで離散していた卒業生が，再会と再建をめざして活動していた時代を過ぎ，次の発展をめざして，新たな活動期に入った時代でした。大学同窓会は当時独自の活動を続けておりましたが，大学同窓会を校友会の組織に組み入れる動きが出たのも昭和34年でした。

高校同窓会はと申しますと，古い校友会（電機工業会）の会報（昭和21年）には，高校の前身である電機第一工業学校同窓会の会員向けの文章や，会費のことが掲載されていますし，昭和24年の号にも一工同窓会会費のこと，二工同窓会会費に関する記事がありますので，高校の前身二校の同窓会は，何等かの活動をしていたことが推察されます。

しかし学制改革により，一工・二工が高校になってからは，古い卒業生から新しい卒業生への引継ぎが不充分であったためか，同窓会活動がいつの間にか休止状態になっていたのです。

2　起　点

こういう状況の中で昭和33年，私共と高校卒業生の川原崎由夫氏とが，共に校友会の理事を勤めたことがありました。はじめのうちは，いわば互に見知らぬ者同志であった三人が，理事会で知り合い，機会を見ては話し合っているうちに，互に気心の通じ合う者となって来た訳です。こういうことから推して，同窓会があれば，会合を通して卒業生の和が拡げられるという自信もでき，同窓会設立の話は益々はずみがついてきたのです。

私共の考えた同窓会は，はじめから校友会の下部組織として，しかも同窓会独自の活動も可能となるような新構想のもとに，昭和35年4月17日に発足したのですが，およそ1年半以上の準備期間中にいろいろな苦労があり，人と人との連繋もできたのです。この間協力して下さった方々の中には，母校の池谷武雄校長，後継の清水明校長，校友会の三村操理事長，後継の松本豊太郎理事長，校友会事務局の宮島政信局長，中川弁造氏，池田重蔵氏，森茂氏といった方がおいでになります。

3　組織の骨子

同窓会を，活動している状態で永続させるには，しっかりした組織・会則を持たねばなりません。そこでまず同窓会を校友会の一部分として認めてもらおうと考えました。初めの頃は名称も，東京電機大学校友会何々支部になぞらえて，東京電機大学校友会高等学校同窓会としました。

一方，同窓会の内部組織としては，会員相互の親睦という主目的が実現できるよう，会員同志顔を合わせやすくすることを狙いました。総会・同期会・クラス会といった縦の系列のほか，横の系列として勤務地区別の同窓会を考え，いつでも，どこででも接触できるこういう構想を，今回は電話交換器にたとえて，クロスバー方式と呼び，鷲見は布地の縦糸・横糸と呼びました。

≪以上高校40周年誌「回想」より抜粋≫

初代幹事の委嘱状

拝啓　益々御清栄の段お喜び申し上げます。

此のたび　諸君の御尽力により同窓会も無事新発足いたしましたことは誠に御同慶に存じます。

貴殿は常任幹事に推薦され満場一致承認されましたのでお知らせと同時に今後の御活躍をお願い致します。

なお常任幹事氏名は次の通りです。

青木仁（23年卒）稲垣恵三（21）大橋英夫（31）
龍宮雄治（34）勝山紀夫（35）熊谷作一（22）
倉持悦久（21）今田　正（24）坂井孝志（31）
塩瀬喜一（28）鷲見　篤（23）谷沢正一郎（24）
中谷正弘（35）野瀬健一（27）丸山泰弘（26）
本橋敏克（29）油原延治（32）横山　実（23）
渡辺正司（28）　以上19名（50音順）

昭和三十五年四月十七日

敬具

東京電機大学高等学校同窓会
会長　清水　明

殿

同窓会の歩み

年月	出来事
昭和35年1月	高校同窓会設立の援助を校友会並びに母校に願い出る。
35年2月	母校より同窓会設立準備資金として七六〇円下賜される。
35年3月	設立発起人会を開催、創立総会を本館五階講堂で開催、校友会から高校同窓会設立を承認される。
35年5月	第一回幹事会にて初代幹事長に今田正氏互選される。
36年3月	新卒業生から入会金の徴集
37年3月	ガリ版刷の勤務地区別会員名簿の発行、新卒業生に同名簿配布
38年3月	校友会経由で入会金が支給される。
39年3月	総会でレリーフ基金募金開始を決定、募金活動を開始する。
39年11月	千代田地区と中央地区の同窓が同時に発足。
40年5月	小石川新校舎で初の総会を大盛会に開く。
40年6月	第一回の卒業者名簿の発行に協力。
40年11月	第一回卒業者名簿校友会から発行
41年3月	勤務地区別同窓会名簿の改訂発行
48年5月	総会を兼ねて湯島会館にて同窓会立ち三十周年歴代校長を囲む会を開催
49年4月	第一回クラス委員名簿（住所録付）を発行
49年7月	本年度より同窓会の事業として電機大学へ進学した新会員を対象として英語・数学の会員講習会を開催
50年7月	第二回の全卒業者名簿の発行に協力
53年6月	本年度の総会で53・54年度の同窓会の事業として高等学校創立四十周年記念事業を推進する事を決定
54年6月	同窓会創立二十周年目を記念し「グランドパレスホテル」にて総会を開催、また高等学校創立四十周年式典並びに記念事業に協力
57年　月	第三回全卒業者名簿の発行に協力
57年6月	総会後第一工業・第二工業の卒業生を招待し小石川体育館にて懇親会を行う。
58年6月	総会後池谷前校長の「絵についての思い出」を講演していただき懇親会場にも今までの絵を展示説明をされる
59年6月	総会後清水明前校長による「小石川移転の思い出」の講演をしていただき懇親会場には佐藤吉弥先生の絵を展示していただく
43年　月	レリーフ基金をもとに「若者の像」製作

◎歴代幹事長より一言

初代幹事長　今田　正（昭和35年5月～昭和37年11月）

1. 当時の財政
昭和35年の初年度は，まだ準会員の予納制度もなく収入は皆無で通信費と幹事会の夕食費は，かろうじて校友会からの援助で賄うと云う状態で誠にひもじい財政であった。
2. 幹事の心構
当時の幹事会は，基礎造りの使命感に溢れ，総ての困難を若さで乗り越えた時代であった。
3. 入会金の徴集とクラス委員の選出
昭和36年3月の卒業生から，入会金の徴集とクラス委員の選出については，母校の先生，特にクラス担任の先生には大変ご苦労をおかけしたことは，誠に申訳なかったことでした。
4. 動務地区別会員名簿の発行
創立総会の返信用はがきはカード方式に作成してあったので，幹事が各々自宅へ持ち帰り，動務地区別会員名簿の原稿作成に当り，ガリ版刷でありますが，昭和37年3月初版を発行することが出来ました。
早速，卒業生に配布しました所，自分達の就職先に先輩が勤務していることが解り，大変に喜ばれたことを覚えています。

二代目幹事長　鷲見　篤（昭和37年11月～昭和41年4月）

もう25年になるんですね。今田さんと2人（初めの頃は川原崎さんもいて3人）で，同窓会づくりに奔走していた頃は年令も28歳程で，若かったせいか，心が熱く燃えていましたね。同窓会づくり……体は疲れたし，気は使ったし，苦労といえば苦労だけれど，結局は，やりがいがあって，楽しかったんです。幹事長時代の思い出より，この時期の思い出の方が印象深く残っています。

- レリーフ基金募集開始…39・3・28の総会の席で佐藤吉弥先生が「新校舎壁面に若人を象徴するブロンズ像があればよいのだが……」という希望を話され，校友会の長沢三四郎常務理事や龍宮さんの賛成発言があって，すぐ募金開始。校舎入口右手にある「若者の像」の制作費の一部に，この基金が使われています。
若者の像は，卒業生と在校生を結ぶ心の接点です。
- 地区同窓会発足…39・11・21，千代田地区と中央地区の同窓会が，同時に発足。〔千代田地区幹事小竹四郎さんは四代目幹事長〕
- 新校舎で初の総会…40・5・22，新校舎での初の総会とあって大盛会。出席者総数250名ほどで，常任幹事一同も喜びました。

三代幹事長　青木　仁（昭和41年4月～昭和41年　月）

私は初めての全卒業生名簿の作成から参加した。
同窓会というものをどうみるかが議論になった。同じ学窓を巣立った社会人というところをよりどころにした，ゆるい組織として是認しつつ，卒業生社会人と在校生，学校教職員三位一体の善意の活用を基本に，大いに多面的交流をはかる。このことを基本に，ひろげ発展させることを本旨にしてきたと思う。
このことから名簿の作成の意義も，生活の知恵の交換や，事業所の所在地域性を有利に活かしたふれあいのなかから，母校と在校生に様々な還元を創り出すようにしようとした。同期名簿，地域名簿などの作成は，その具体的現われであると思う。これらは，たずさわる人に献身性が要求され，さらに専任の従事者をおく財政保障もする措置もやがては必要になるもので，継続発展させるべきものでしたが，以後，責任を果たせず反省点の一つです。
同窓会の本旨にたった考え方を貫ぬく事業として，三位一体の懇談会をひらき，校内生活問題や卒業生と在校生の物の考え方の交流，大学紛争問題まで言及したこともある。また，年一度の総会には必ず在校生プラスバンドに協力をお願いし，先生方との懇親会を欠かさずもってきたと思う。
いまも次つぎと，幹事の方々に，この精神は継続していると思いますが，仕事も忙しく家庭問題も社会全体の進展の反映もうけ，学校教育上の問題も社会化しているだけに，また新しい勇気と誠実さが求められていると考えるがどうだろうか。

四代幹事長　小竹四郎（昭和46年　月～昭和47年7月）

高校同窓会創立25周年を迎えたこと先づお祝い申し上げます。
昭和35年初代幹事長の今田氏他有志の方々のご苦労により創立され，その後歴代の幹事長並びに幹事の皆様によって益々発展してまいりました。
私は当初（昭和39年）千代田地区同窓会の幹事をいたしましたが，特別な事も出来ずに終っており，その後は，同窓会幹事を数年いたしまして，昭和46年に同窓会幹事長に推されて，不肖の身でありますがお受けした次第でありますが，一身上の都合で一年の任期で退いたわけで任期中これと言った働きも出来ず恥じております。
しかし，強いて思い出を探すならば，昭和46年秋の電高祭の機会に，明春卒業される在校生（準会員）との親睦を深めるための一助として，高校製図室において，同窓会幹事と座談会を開催いたしました。
この大要は「工学情報」'71年12月号に掲載されました。内容としては，①就職について，②進学について，③学校生活についての三つの点について，率直な意見が交換され，若々しい在校生の将来の希望や先輩たちへの要望など大変参考になりました。
又，高校同窓会幹事の懇親会と称して，当時校友会の理事であった，田中剛三郎大先輩を神田の繩のれん酒場へお招きしたことがありますが，よく出席して下さったと，感謝すると共に今になって汗顔の至りと思っております。

五代幹事長　柴山茂男（昭和47年7月～昭和51年　月）

若輩ものの私が幹事長の重責をおおせつかったのは，昭和47年7月から昭和51年度の総会までと記憶しております。多分に冷汗の流れた期間でありました。
当時の同窓会は，大きな責務の一つとして（社）東京電機大学校友会の発行する卒業者名簿について，卒業者の住所を確認する業務の協力を推進することがありました。その具体的方法は住所の情報を持っている人達，すなわちクラスの中心人物（クラス委員）を把握し，その人々の名簿を校友会へ提供することでした。
さてその仕事を始めてみると，住所変更があったり，実質的な中心人物が交代していたりして，同窓会の幹事が手分けしてその見直しにあたったのですが，期日までに完成させるためには，かなりの努力を要求されました。
そして，その作業のなかから幹事相互の親密度が高まり，また多くの先生方とお話しする機会を得たことは大きな収穫であったと心に残っております。
もう一つは「歴代の校長先生を囲んで」というテーマのもとに，学校以外の会場（湯島会館）で昭和49年度の総会を開いたことです。そして同窓会幹事が「電話作戦」を主体として参加者の増大につとめました。そのかいがあってかクラス委員を中心に，来賓・招待者を含め104名の盛会となりました。大成功だったのです。
このたび同窓会の創立25周年を記念する刊行物に，幹事長経験者の一人として寄稿させていただき，改めて任期中の事柄を想いおこすと，たいへん幸せな期間を持たせていただいたものと，感謝の意をさらに深くいたしました。

六代幹事長（会長）松下祐輔（昭和51年　月～昭和58年5月）

昭和47年の第13回総会で，常任幹事に選ばれてから，現在に至るまで常任幹事として，同窓会の運営にたずさってまいりました。その間，昭和51年の第17回総会後の常任幹事会で，第6代目の幹事長に推せんされ，その後昭和56年の第22回総会での会則改正により会長に就任，昭和58年の第24回総会まで会長を務めさせて頂きました。私の幹事長・会長在任中，特筆すべきことと申しますと，昭和54年の同窓会創立20周年目，母校創立40周年並びにPTA創立30周年を記念して，学校・PTAと共に，高等学校創立40周年記念事業委員会を組織し，その委員長として，記念式典を6月2日にグランドパレスホテルで各界の代表を初め多くの来賓，教職員，PTA会員，同窓会々員のご出席を賜り盛大に挙行することが出来たこと，また，委員会として企画した記念事業も，当初の計画どおり無事達成出来たことが，私にとっては強く印象に残っております。そのほかにも，同窓会の本来の目的である，活発な親睦を図るため，学校のご理解，ご援助のもとに昭和56年の総会より，特別企画をたて，昭和56年の第22回総会では，台湾校友会の廖錦峰氏を招き"台湾電気業界について"の講演を，第23回総会では，一工，二工卒業を囲む特別懇親会を，第24回総会では池谷武雄元校長先生の"生きて描く"と題する講演を実施し，同窓会の活性化に務めてまいりました。お蔭様で多くの教職員，卒業生のご協力を賜り，総会にも多数の会員が出席頂けるようになりました。ご協力下さった方々に厚くお礼申し上げます。

同窓会会則及び組織図

第１章　名称及び事務所々在地

第１条　本会は東京電機大学高等学校同窓会と称す。
第２条　本会は事務所を東京都千代田区神田錦町１－４東京電機大学校友会内に置く。

第２章　目　　的

第３条　本会は会員相互の親睦を図り併せて会員と母校との連繋を密にし東京電機大学校友会の事業遂行に協力するを以って目的とする。

第３章　会　　員

第４条　本会の会員は特別会員，正会員，準会員よりなる。
２　特別会員は東京電機大学高等学校の教職員及び本会に特に功労あるものにして幹事会の推薦によるもの。
３　正会員は東京電機大学高等学校，東京電機工業学校，電機第一工業学校，同併設中学校，電機第二工業学校，同併設中学校，電機学園高等学校の卒業生とする。
４　準会員は東京電機大学高等学校の在学生とする。
第５条　特別会員，準会員は議決権，選挙権，被選挙権を有しない。

第４章　役　　員

第６条　本会には次の役員を置く。
一　名誉会長１名
二　顧問若干名および参与若干名
三　会長１名，副会長２名，及び幹事25名以上50名以内，会計監査２名
四　クラス委員を各クラス２名，地域委員を各地域同窓会１名をおくことができる。

―以下略―

第５章　会　　合

第９条　総会は毎年１回会長はこれを召集し本会の事業経過計画案，幹事及び会計監査の承認，収支決算予算案の報告並びに議決をおこなう。

―以下略―

第６章　会費及び会計

第13条　本会に入会するものは入会金1,500円を納入するものとする。
２　本会の会費は東京電機大学校友会費の納入を以ってこれを認める。
第14条　諸会合に要する経費は，その実費を徴収することができる。
第15条　会計監査は，本会の会計を監査する。
第16条　本会の会計年度は，毎年４月１日に始まり翌年三月末日に終る。

第７章　会則の改正その他

第17条　本会則の改正は総会の議決を要す。

―以下略―

付　　則

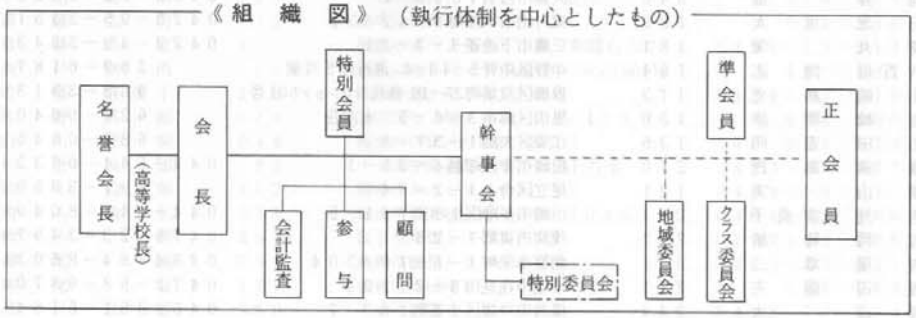
１　略
２　昭和56年６月27日全面改正
　　昭和57年６月26日第13条一項一部改正

東京電機大学高等学校同窓会会則細則

第１条　名誉会長には東京電機大学高等学校長を推戴する。
２　顧問は特別会員の中から，参与は会員の中から幹事会にて推薦する。
３　会長及び副会長は幹事会の互選で定める。

―以下略―

《組　織　図》（執行体制を中心としたもの）



クラス委員名簿

◎学校の沿革

電機第一工業学校	設立	昭和14年４月	初　　版	昭和49年４月
（東京電機工業学校）	廃止	昭和24年３月	第１回改定	昭和50年４月
			第２回改訂	昭和51年４月
電機第二工業学校	設立	昭和19年４月	第３回改訂	昭和52年４月
	廃止	昭和24年３月	第４回改訂	昭和53年４月
			第５回改訂	昭和55年４月
電機学園高等学校	設立	昭和23年４月	第６回改訂	昭和56年４月
			第７回改訂	昭和58年４月
東京電機大学高等学校		昭和31年２月１日校名変更	第８回改訂	昭和59年４月
			第９回改訂	昭和60年４月
			第10回改訂	昭和　年　月

◎東京電機大学高等学校同窓会

設　立　昭和３５月４月１７日
所在地　〒１０１　東京都千代田区神田錦町１－４
　　☎ 03－294－1551（代）
　　社団法人　東京電機大学校友会

◎東京電機大学高等学校

所在地　〒１１２　東京都文京区後楽１－７－２６
　　☎ 03－813－6911（代）

◎校友会・学校の組織

学校・学科・年次別卒業者数一覧

卒業年次	電機第一工業学校				電機第二工業学校				小計		合計
	第1本科		第2本科	併設中学	第1本科		第2本科	併設中学	電機第一工業学校	電機第二工業学校	
	電気科 E	機械科 M	電気科 E	J	電気科 E	機械科 M	機械科 M	J			
17			89						89		89
18	51		85						136		136
19											
20	100		91						191		191
21	58		48						106		106
22			100		132	50			100	182	282
23	53		106	161	78	26	8	243	320	355	675
24	117	26	65	359	190	46			567	236	803
中計	379	26	584	520	400	122	8	243	1509	773	2282

卒業年次	全日制 電気科 電力課程									全日制 電気科 電気機器課程		全日制 電気科 電気通信課程		全日制 電気科 電気計測課程	定時制 電気科		定時制 電気科 電力課程		定時制 電気科 電気機器課程	定時制 電気科 電気通信課程	小計 全日制	小計 定時制	合計
	E_1	E_2	E_3	E_4	M_1	M_2	C_1	C_2	I						E	M	E_1	E_2	M	C			
24															94	10						104	104
25	54	52			64		39										42	44			209	86	295
26	48	48	51	49	52		45										49	47	27	60	293	183	476
27	51	50	50		46	43	53										40	46	50	37	293	173	466
28	56	57			51		50										53		38	64	214	155	369
29	50	37			62		55		29								49		41	39	233	129	362
30	55	53			36	44	54		38								55		30	40	280	125	405
31	55	49			59		58	56	33								50		28	57	310	135	445
32	52	54			49		59	60	38								73		41	51	312	165	477
33	56	59			55		63	63	48								55		36	64	344	155	499
34	61	66			62		51	54	60								49		41	44	354	134	488
35	56	59			52		60	65	56								59		48	54	348	161	509
36	62				55		61	60	52								67		51	60	290	178	468
37	62				64		61	64	66								73		65	65	317	203	520
38	58	61			67		63		60								70		57	59	309	186	495
39	60				49		56	53	54								62		53	55	272	170	442
40	65				65		63	67	57								51		35	58	317	144	461
41																	47	47		52		146	146
中計	1696				975		1433		591						94	10	1128		641	859	4695	2732	7427

卒業年次	全日制 電気科			全日制 電子科		全日制 機械科		全日制 工業計測科	定時制 電気科		定時制 電子科	小計 全日制	小計 定時制	合計
	E_1	E_2	E_3	D_1	D_2	M_1	M_2	I	E_1	E_2	D			
41	68	66		69	69	54		62				388		388
42	54	56	50	64	59	52		56	42	39	47	391	128	519
43	56	54		58	54	54		55	48	41	37	331	126	457
44	61	64		67	64	68		56	64		64	380	128	508
45	61	60		51	55	48	49		47		21	324	68	392
46	66	63		62	64	55	55		47		20	365	67	432
47	56	55		58	49	58	59					345		345
48	50	51		52	52	53	53					311		311
49	56	57		51	51	52	49					316		316
50	55	52		61	62	49						279		279
51	52	50		43	50	48						243		243
52	59	59		58	56	50						282		282
53	60	56		59	66	56						297		297
54	51	55		49	51	52						258		258
55	50	47		56	55	43						251		251
56	49	50		49	51	51						250		250
57	54	54		57	55	48						268		268
58	50	47		51	54	53						255		255
59	51	53		54	51	50						259		259
60	50	50		43	43	50						236		236
中計	2258			2233		1309		229				6029	517	6546

卒業年次	全日制 普通科 L_1	L_2	L_3	L_4	L_5	合計
27	37					37
28	30					30
29	39					39
30	47					47
31	58					58
32	42					42
33	50					50
34	50					50
35	60	55				115
36	55	54				109
37	55	53				108
38	51	55				106
39	59	56				115
40	63	64	60			187
41	63	64	63	65		255
42	60	63	64	62		249
43	58	56	58	58		230

卒業年次	全日制 普通科 L_1	L_2	L_3	L_4	L_5	合計
44	60	53	53	51		217
45	55	57	57	57		226
46	54	51	54	57	54	270
47	49	49	50	49		197
48	54	54	54	53		215
49	52	52	55	48		207
50	51	50	51	51	50	253
51	53	53	54	52	42	254
52	52	54	53	51	52	262
53	52	51	53	52	52	260
54	55	55	56	56	49	271
55	54	53	55	54	50	266
56	47	49	49	49	47	241
57	53	51	54	52	48	258
58	51	50	51	51	52	255
59	51	50	49	50	51	251
60	47	46	46	45	43	227
中計	1767	1398	1139	1063	590	5957

学校・学科・卒業年次別担任・クラス委員一覧

高等学校は学制改革による，校名変更や学科名変更等により，複雑なクラスわけとなっております。

各クラス委員は，現在約390のクラスがありますが，約290名のクラス委員しかおりません。まだクラス委員の決定していないクラスの皆様は是非この機会にクラス委員を決定していただけるよう御協力御願い致します。

また，昭和57年より高等学校同窓会会則改訂により１クラス，２名のクラス委員となりました。現在は各クラスとも１名ですが２名へ移行できるよう御願い致します。

クラス委員は，クラスの各人と高等学校同窓会とのパイプ役であり，しいては校友会や高等学校との連携を密にするものであります。

これらも皆様の御協力があって成り立っているものです。

クラス委員の変更なども校友会まで御一報下されば幸いです。

表は次のように見て下さい。

24	吉田　宇一
	小竹　四郎

左図のように卒業年次の上段がクラス担任
下段がクラス委員となります。

卒業年次	電機第一工業学校 第１本科 電気科 E	機械科 M	第２本科 電気科 E	併設中学 J	電機第二工業学校 第１本科 電気科 E	機械科 M	第２本科 機械科 M	併設中学 J
17			稲垣　忠雄					
			佐々嶋長治					
18	堤　良富		清水　明					
	渡辺　和正		豊田　健造					
19								
20	清水　明		清水　明					
	高野　新吉		池ケ谷道夫					
21	清野　明夫		作道　兵次					
	倉持　悦久		中村　政雄					
22			服部　三郎			加藤　高治		
			粟屋　昭					
23	清水　明		吉田　宇一		磯部　直吉 原口　喜八 深海登世司 金森	早川　喜知	伊藤　克己	
	青木　仁		蛭間　恵治		木下　務			
24	清水　明	首藤　富家	吉田　宇一		原口　喜八	首藤　富家		
	中田　勇	常広　武雄	鈴木　治郎		戸井田　豊			

卒業年次	定時制					
	電気科	機械科	電気科			
			電力課程		電気機器課程	電気通信課程
	E	M	E_1	E_2	M	C
24	吉田 宇一	伊藤 克己				
	小竹 四郎	横田 実				
25			服部 三郎	吉田 宇一		
				鈴木 治郎		
26			鈴木 徳三	鈴木 徳三	伊藤 克己	原口 喜八
			荒井美喜男		小沢 位	
27			横田良次郎	鈴木 徳三	伊藤 克己	原口 喜八
				駒形 昌雄		小林 建雄
28			河部 貞夫		首藤 富家	森田 恒久
			佐藤 守弘			
29			鈴木 徳三		首藤 富家	角田 秀夫
			関根 章		北風 康夫	森 真
30			河部 貞夫		横田良次郎	板垣 光夫
			宮田 利一		松本 和夫	菅野 敬弘
31			小針 藤男		首藤 富家	角田 秀夫
						大沢 和夫
32			河部 貞夫		大渡 正治	板垣 光夫
			茂木 実		吉川 洋	
33			小針 藤男		大渡 正治	角田 秀夫
			尾身 亀吉		与儀 正久	
34			角川 一治		小針 藤男	中島 輝夫
						椎津 利雄
35			角川 一治		大渡 正治	中島 輝夫
			高島 清淳			池田 恒男
36			桜井 松治		横田良次郎	中島 輝夫
			野村 力男			浜川 坦
37			杉野 良知		桜井 松治	横田良次郎
			石崎 泰司		黒田 忠治	宮城 一治
38			杉野 良知		下崎 和彦	大江 康男
			上倉 幸男		安藤 忠	中山 秀次
39			大江 康男		吉田 宇一	白川 守昭
						坂本 寛
40			吉田 宇一		下崎 和彦	松岡 三夫
41			見崎 正行	則友 克敏		長谷川裕一
						小杉 喜美

卒業年次	定時制		
	電気科		電子科
	E_1	E_2	D
42	槇 将	山崎 修快	鈴木 治郎
43	高久 広敏	人見 芳行	鈴木 治郎
	加賀 勉	厚谷 豊	井筒 幸二
44	人見 芳行		鈴木 治郎
	大石 四郎		
45	人見 芳行		鈴木 治郎
	金子 英司		
46	鈴木 治郎		鈴木 治郎
			石川 秋男

卒業年次	全日制								
	電気科								電気計測課程
	電力課程				電気機器課程		電気通信課程		
	E_1	E_2	E_3	E_4	M_1	M_2	C_1	C_2	I
25	高橋 源八	岩佐 徹			首藤 富家		角田 秀夫		
	中田 勇	戸井田 豊			常広 武雄		森山 潤隆		
26	野口 茂	大江 康男	吉田 宇一	加藤 高治	佐藤 善慶		中島 輝夫		
	加藤 正樹			中島 政良	山川 保		早川 宏		
27	平野 三郎	大渡 正治	林 六郎		中沢(高藤)実	板垣 光夫	桜井 松治		
	新井 昭男	岩田 慶一	小島 輝一		今井 昇	横山 真一	野瀬 健一		
28	野口 茂	角田 秀夫			桜井悌二郎		鈴木 藤男		
	橋本 光男	青木 良造					渡辺 正行		
29	小西 吉孝	佐藤 善慶			中沢(高藤)実		中島 輝夫		伊藤 克己
		渡辺 勉					荻野 宏泰		尾島 崇弘
30	林 六郎	神庭 明			大渡 正治	吉田 宇一	桜井 松治		大江 康男
		石塚 武夫			小野 栄一		柴山 茂男		保坂 弘
31	杉野 良知	野口 茂			鈴木 徳三		吉田 孝俊	伏見栄治郎	伊藤 克己
	原口 尚久						森 健輔	坂井 孝志	小長谷 登
32	角川 一治	桜井悌二郎			中沢(高藤)実		中島 輝夫	寺尾 功吉	佐藤 善慶
	倉林 純一						増田 克己	柳 博	松本 徳孝
33	板垣 光夫	渡辺 明			吉田 宇一		桜井 松治	横田良次郎	大江 康男
	飛田 偉靖				後藤 隆夫				
34	杉野 良知	鈴木 徳三			中沢(高藤)実		野口 茂	吉田 孝俊	伊藤 克己
		高橋 清			松下 祐輔				中野 善夫
35	佐藤 吉弥	吉田 宇一			鈴木 治郎		角田 秀夫	佐藤 善慶	大江 康男
	北村 義明	名古屋 勲			鈴木 整司			見崎 正行	渡辺 黎一
36	板垣 光夫				小針 藤男		佐藤 善慶	白井光太郎	伊藤 克己
								日比野靖昌	藤田 安彦
37	野口 茂				斉藤 広吉		大渡 正治	角田 秀夫	石川 孝志
	荒井 義久						柳田 佳孝	横溝 邦彦	
38	大田 健	吉田 宇一			横山 実		鈴木 治郎		伊藤 克己
	形屋 憲一	佐藤洋志郎					細田 勝久		鶴見 勝義
39	中島 輝夫				小針 藤男		高木 正夫	白井光太郎	渡辺 太
								三橋 慶二	渡辺 正行
40	中村 広幸				斉藤 広吉		桜井 松治	菊地 諒	伊藤 克己
								川村登志一	倉本 馨

卒業年次	全日制								
	電気科			電子科		機械科		工業計測科
	E_1	E_2	E_3	D_1	D_2	M_1	M_2	I
41	大田 健	大田 健		角田 秀夫	鈴木 治郎	横山 実		中田 勇
	石附 止				印宮 登	渡辺 高幸		荘司 仁
42	松岡 三夫	加藤 栄治	宮崎 発	白川光太郎	川島 純一	伊藤 克己		大江 康男
	原 邦男		畑山 昭一	平賀 徹		川田 純		新山 恒夫
43	斉藤 成信	中村 広幸		桜井 松治	菊地 諒	斉藤 広吉		渡辺 太
		和田 真一		杉本 好彦				
44	中村 隆一	中田 勇		高村 広昭	見崎 正行	横山 実		大江 康男
	赤川富美枝	山脇 茂雄		花嶋 秀年	菊嶋 和則	岡田 和喜		由井 康雄
45	宮崎 登	加藤 栄治		白井光太郎	川島 純一	松岡 三夫	横山 実	
	酒井 明	岡本 清次		松村 雅之	小川 晴夫	小野 喜之	鳥飼 洋一	
46	大田 健	中村 広幸		白井光太郎	高村 広昭	石川 孝志	伊藤 克己	
	川本 敏	秋山 清隆		石橋 和夫		田畑 有三	阿部 俊	
47	鈴木 治郎	渡辺 太		見崎 正行	中村 隆一	大江 康男	山田 宏明	
	大橋富士人	山田 宏己		早坂 幸雄	持木 文男	谷田部 宏	船田 嘉章	
48	宮崎 登	加藤 栄治		松岡 三夫	川島 純一	大湯 幸夫	横山 実	
	山内 利夫	尾身 栄一		日野 一武	渡辺 敏章	林 達也	大羽 克己	
49	間辺幸三郎	高橋 源八		白井光太郎	大谷 稔	高村 広昭	中村 広幸	
		山口 孝博		高橋 康一	岡田 孝治		石塚 仁史	
50	高橋 源八	中村 隆一		見崎 正行	前嶋 万人	大湯 幸夫		
	高瀬 裕司	杉浦 義彦		大谷 茂	佐藤 仁	高瀬 勝義		
51	宮崎 登	鈴木 博		五十木基晴	大江 康男	横山 実		
	平井 広史	神田 正一		柳川 守	吉田 邦男	池田 邦明		
52	間辺幸三郎	高村 広昭		菊地 諒	大谷 稔	槇 将		
		大塚 徹		村上 裕一	前場 宏二	海川 次郎		
53	鈴木 博	中村 隆一		見崎 正行	宮本 治	大湯 幸夫		
	後野 明仁	相川 次男		秋山 益織	清水 敏久	本間 昭伸		
54	宮崎 登	田上 光治		前嶋 万人	大谷 稔	横山 実		
	稲田 浩二	吉田 俊司		三輪 浩康	山際 康之	平澤 輝男		
55	松岡 三夫 石井 和之	津村 栄一		菊地 諒	高村 広昭	槇 将		
	榊原 俊行	手塚 勝		山田 富夫	稲川 秀勝	小林 正一		
56	鈴木 博	中村 隆一		見崎 正行	林 幸男	横山 実		
	鈴木 幸治	山崎 育昭		鈴木 昭広	新谷要次郎			
57	斉藤 広吉	則友 克敏		前嶋 万人	生熊 勝彦	山田 宏明		
	滝沢 毅	天野 裕一		平沢 一寿	今尾 裕	早坂 勝浩		
58	鈴木 治郎	津村 栄一		見崎 正行	人見 芳行	山路 雅一		
	福原 幸規	木村 武晴		山崎 誠人	富井 清隆	江部 智治		
59	鈴木 博	高村 広昭		向芝 京太	石川 孝志	横山 実		
	浅田 直樹 在藤 和幸	亀岡 和裕 星野 雅幸		大曽根康史 松田 和哉	土屋 伍 松本 剛	鈴木 久郎 鈴木 正成		
60	斉藤 広吉	大田 健		渡辺 太	前嶋 万人	小峯 龍男		
	青沼 孝 深見 孝一	宮崎 佳之 野本 浩		安井 哲也 石井 俊一	染野 明 笠木 孝夫	猪鼻 一芳 岩崎 道義		

卒業年次	全日制 普通科				
	L_1	L_2	L_3	L_4	L_5
27	青木 成宗				
	新井良二郎				
28	吉田 孝俊				
	諸橋 弘之				
29	宮本 敏雄				
	川西 康夫				
30	平野 三郎				
	大森 雄一				
31	佐藤 吉弥				
	黒岩 藩				
32	大久保芳随				
33	神庭 明				
34	伏見栄次郎				
35	大久保芳随	北原 泰彦			
	鈴木 恭雄	前嶋 万人			
36	神庭 明	大渡 正治			
	相川 祐三	植田 正昭			
37	伏見栄次郎	吉田 孝俊			
	五島 章文	藤田 明也			
38	大久保芳随	伏見栄次郎			
	加藤 計夫	我妻 功規			
39	神庭 明	板垣 光夫			
40	吉田 孝俊	伏見栄次郎	平野 三郎		
	渡辺 貞嗣		高崎 新平		
41	大渡 正治	杉野 良知	石川 孝志	大久保芳随	
	草間信一郎	野村 仁	村田 陽一	松井 努	
42	中島 輝夫	山田 宏明	磯部 昭二	白川 守昭	
	光木 保臣	戸江 栄一		大館 敏夫	
43	神庭 明	石川 孝志	板垣 光夫	吉田 孝俊	
	上原 博通	宮沢 秀実	六反田和幸		

卒業年次	全日制 普通科				
	L_1	L_2	L_3	L_4	L_5
44	山田 宏明	磯部 昭二	中村 圭佑	大久保芳随	
	中村 悟	杉山 行男	渡辺 洋一	木伏 明人	
45	中島 輝夫	五十木基晴	則友 克敏	白川 守昭	
			菱田 豊彦		
46	杉野 良知	槇 将	板垣 光夫	高久 広毅	茂木 雅博
			本居 幸治		嵯峨崎孝吉
47	大久保芳随	磯部 昭二	斉藤 成信	高久 広毅	
		三宅 清	浅見 正一		
48	中島 輝夫	人見 芳行	則友 克敏	白川 守昭	
	明石 弘一		木村 晴彦	佐藤 孝雄	
49	杉野 良知	板垣 光夫	石川 孝志	茂木 雅博	
	半田 孝	中台 淳一	新井 建也	藤田 清	
50	杉野 良知	磯部 昭二	斉藤 成信	高久 広毅	山田 宏明
	黒田 正人		川島 正春	古城 仁	秋山 公一
51	石川 孝志	則友 克敏	人見 芳行	松岡 三夫	林 幸男
	松丸 昭彦	安藤 政旦	石井 正一	種田 光利	菊山 仁
52	神庭 明	白川 守昭	板垣 光夫	中村 広幸	茂木 雅博
	増田 桂一		小野木広行		石渡 上
53	杉野 良知	中村 圭佑	松岡 三夫	高久 広毅	斉藤 成信
		目黒 香一	松岡 俊和	相原 浩一	遠藤 史郎
54	石川 孝志	則友 克敏	磯部 昭二	生熊 勝彦	板垣 光夫
	宮木 真人		小山 洋一	小出 修男	坂本 尚孝
55	大江 康男	斉藤 成信	人見 芳行	林 幸男	茂木 雅博
	本橋 功次	花房 勲	貴田真一郎	瀬賀 幸一	生方 健二
56	五十木基晴	中村 圭佑	宮本 治	高久 広毅	白川 守昭
	大館 昭彦	沢田 勉	吉水 雅彦	糸川 剛	遠藤 弘昌
57	大谷 稔	田上 光治	磯部昭二	石川 孝志	板垣 光夫
	木村康二郎	山瀬 智晴	小林良太郎	小野寺智幸	飯塚 美治
58	大江 康男	石井 和之	高村 広昭	槇 将	松岡 三夫
	岩本 健	及川 俊也	飯田 公司	岩井 厚	長堀 岳治
59	宮本 治	吉場 章二	高久 広毅	大谷 稔	白川 守昭
	鈴木 鈴也 下間 靖浩	内藤 剛 中島 忠彦	松島 克幸 野村 英道	藤原 国之 渡辺 泰幸	加藤 剛 矢津 洋一
60	山田 宏明	人見 芳行	林 幸男	磯部 昭二	山崎 晴康
	宮田 寛 向 裕次	高田 剛史 宮坂 茂春	大山 真一 京極 政宏	小宮山敏樹 腰原 潔	今中 繁義 坂田 朝徳

同窓会の活動報告

《昭和59年度　事業報告》

事業種別	日時・場所・内容	出席者等
総会	昭和59年6月30日（土） 於：小石川校舎　実演室（総会） 体育館（懇親会） ○講演「小石川移転の思い出」 ……清水明元校長	会員88名 特別会員25名 来賓6名
教職員連絡会	昭和59年11月14日（火） 於：後楽園会 ○校友会準会員事業基金の運用・同窓会25周年記念式典について討議	教職員　6名 幹事　17名
クラス委員会	昭和59年9月22日（土） 於：蒲徳亭 ○電校祭初日，和泉雅子氏サイン会併設	教職員　10名 会員　35名
新会員説明会	昭和60年3月5日（火） 於：小石川校舎体育館 ○新卒業生に高等学校同窓会の現状説明	終業式場にて 松下前同窓会長
新クラス委員懇談会	昭和60年3月5日（火） 於：小石川校舎 ○高等学校同窓会への積極的参加要請他	教職員　3名 新クラス委員 20名 幹事　3名
卒業記念品の贈呈	昭和60年3月7日（木） 於：卒業式 ○証書挟み・南部鉄製鍵型栓抜	卒業式に池ケ谷後援会長，野瀬参与参列
クラス委員名簿の改訂・発行	昭和59年5月：委嘱状と承諾書の発送・回収 昭和59年9月：第8回改訂名簿の発行	
クラス会補助	クラス会開催のクラスに補助金として5,000円を支給	28クラス
75周年記念事業への協力支援	学校法人75周年記念事業への協力支援 校友会75周年記念事業への協力支援 昭和59年6月9日（土） 於：小石川運動場 ○体育祭のクラス別対抗表彰・全員に参加賞の配布	印宮同窓会長 池ケ谷後援会長
準会員活動援助（校友会準会員事業基金の運用）	昭和60年1月14日（月） 於：九段会館 ○文化講演会「人生に勝つ」 大山康晴十四世永世名人 昭和60年3月5日（火） 於：小石川校舎体育館 ○部活動優良者の表彰・表彰者4名	幹事　5名 終業式場にて

《昭和59年度　収支決算報告》

（自　昭和59年4月1日～至　昭和60年3月31日）

収入 科目	収入 金額	支出 科目	支出 金額
入会金 510名×2,880円	1,468,800	事業費	1,027,353
		総会費	435,208
		クラス委員会費	145,860
総会会費 78名×2,000円	156,000	クラス会補助費	140,000
		卒業記念品費	132,245
		クラス委員名簿費	85,000
利子・配当金	246,000	教職員連絡会費	89,040
		会議費	115,140
雑収入	113,327	事務通信費	73,500
		諸費	84,400
		予備費	74,720
		25周年委員会費	34,720
		75周年祝賀広告費	40,000
			1,000,000
小計	1,984,127	小計	2,375,113
前期繰越金	569,608	次期繰越金	178,622
合計	2,553,735	合計	2,553,735

《同窓会役員》

名誉会長　吉田宇一
会長　印宮登
副会長　見崎正行
〃　須賀寛光

《59・60年度役員（幹事）》

氏名	卒年	居住地
豊田健造	18	小平市
阿久津功	23	流山市
今田正	24	武蔵野市
鈴木治郎	24	新座市
宇野敬助	27	柏市
柴山茂男	30	横浜市
小長谷登	31	横浜市
松下祐輔	34	朝霞市
日比野靖昌	36	文京区
大塚忠克	39	入間郡
北尾義弘	40	相模原市
印宮登	41	江東区
向芝京太	48	東村山市
平野修一	49	越谷市
古城仁	50	川崎市
鈴木元樹	54	市川市

〔会計監査〕
横山真一　27年卒　船橋市

《財産目録》

昭和60年3月31日現在

項目	基本財産	25周年記念事業基金
内容	東京電力社債	中期国債ファンド
金額	3,000,000	1,000,000

参与　鷲見篤　23年卒
〃　谷沢正一郎　23〃
〃　野瀬健一　27〃
〃　加藤康太郎　29〃
〃　賀張雅弘　31〃

《60・61年度役員（幹事）案》

氏名	卒年	居住地
佐々嶋長治	17	北区
安田正男	18	北区
池ケ谷道夫	20	市川市
中林恒太郎	20	杉並区
清水岩生	20	世田谷区
海老原宮一	23	浦和市
中村広幸	24	市川市
北風康夫	29	大田区
間川清太郎	29	飯能市
見崎正行	35	秦野市
萩原宏芳	35	川口市
石崎泰司	37	江戸川区
渡辺敏章	48	北葛飾郡
須賀寛光	49	越谷市
山口孝博	49	大田区

〔会計監査〕
加藤栄治　30年卒　川越市

《昭和60年度　事業計画（案）》

事業種別	内容	日程
25周年記念事業	記念講演 於：小石川校舎体育館 「エレクトロニクス先端産業と今後の方向」 ……石川明日本TI社社長 祝賀パーティー 於：後楽園会館 25周年記念誌発行	昭和60年 6月22日(土) 昭和60年6月
総会	於：小石川校舎体育館 1. 昭和59年事業報告，決算報告，会計監査報告並びに承認 2. 昭和60年度事業計画案，予算案の審議ならびに承認 3. 役員の改選 4. その他	昭和60年 6月22日(土)
教職員連絡会	教職員と諸事項について協議	昭和60年11月
クラス委員会	クラス委員相互・幹事の懇談会，学校法人75周年記念事業への協力要請	昭和60年9月
新会員説明会	新卒業生に同窓会の説明 於：終業式	昭和61年3月
新クラス委員懇談会	新クラス委員となる人と幹事の懇談会　於：終業式後	昭和61年3月
卒業記念品の贈呈	証書挟み 南部鉄製鍵型栓抜	昭和61年3月 卒業式
クラス委員名簿の改訂・発行	委嘱状と承諾書の発送・回収 第9回改訂名簿の発行	昭和60年5月 昭和60年9月
クラス会開催の補助	クラス会活動を活発化するために，クラス会を開催するクラスに補助金として5,000円を支給（他に校友会より10,000円と通信費，法人より5,000円が支給されます）	随時
75周年記念事業への協力支援	学校法人75周年記念事業への協力支援	
準会員活動援助	体育祭・講演会・クラブ活動等の活動援助（校友会準会員事業基金の運用）	

＊25周年記念事業費の内訳

記念講演費及び講演関係諸費	100,000
記念祝賀会費及び祝賀会関係諸費	1,200,000
記念誌製作費及び発行関係費	500,000
25周年記念事業委員会費	200,000

《昭和60年度　収支予算（案）》

（自　昭和60年4月1日～至　昭和61年3月31日）

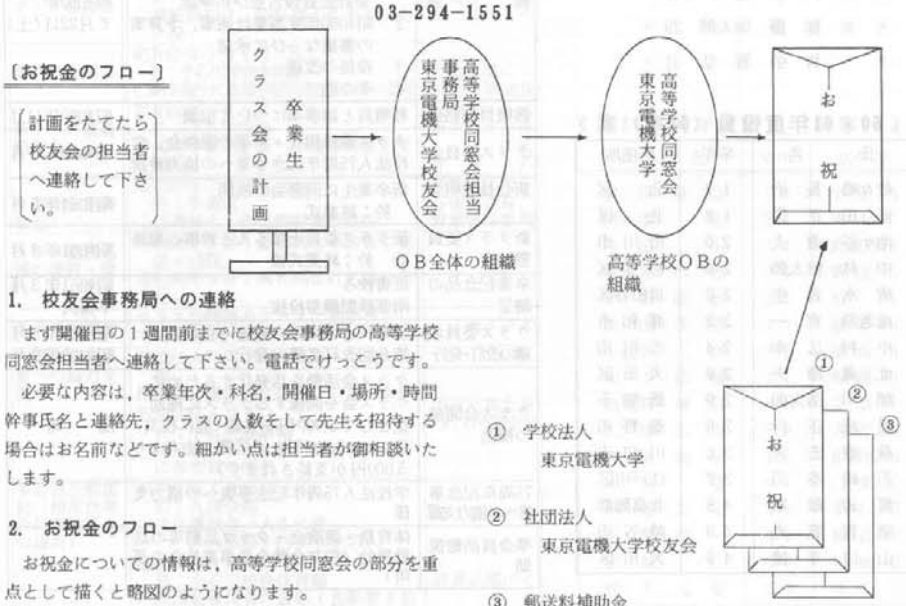
収入 科目	収入 金額	支出 科目	支出 金額
入会金 463名×3,600円	1,666,800	25周年記念事業費＊	2,000,000
		事業費	920,000
		総会費	100,000
利子・配当金	300,000	クラス委員会費	150,000
		クラス会補助費	250,000
雑収入	100,000	卒業記念品費	170,000
		クラス委員名簿費	120,000
25周年記念事業基金	1,000,000		10,000
		教職員連絡会費	120,000
		会議費	130,000
		事務通信費	70,000
		諸費	80,000
		予備費	45,422
小計	3,066,800	小計	3,245,422
前期繰越金	178,622	次期繰越金	0
合計	3,245,422	合計	3,245,422

クラス会お祝金について

同窓会あるいは校友会が発展する基礎は，クラス会が活発におこなわれることだといわれています。高等学校同窓会においても，卒業生の母校に関連する活動を支援するものとして，クラス会を開く方々へお祝金という形をとって，ささやかですが御協力をさせていただいております。

同窓会の上部団体である（社）東京電機大学校友会でも，同様な主旨のもとにお祝金を支出しておりますが，これは校友会が発行する「卒業者名簿」について，住所勤務先，電話など，名簿の改訂整備のデータを得るためという側面を有しております。

〔お祝金のフロー〕



OB全体の組織

高等学校OBの組織

① 学校法人
東京電機大学

② 社団法人
東京電機大学校友会

③ 郵送料補助金
（校友会）

1. 校友会事務局への連絡

まず開催日の１週間前までに校友会事務局の高等学校同窓会担当者へ連絡して下さい。電話でけっこうです。

必要な内容は，卒業年次・科名，開催日・場所・時間幹事氏名と連絡先，クラスの人数そして先生を招待する場合はお名前などです。細かい点は担当者が御相談いたします。

2. お祝金のフロー

お祝金についての情報は，高等学校同窓会の部分を重点として描くと略図のようになります。

先生が出席される場合は，校友会から学校法人東京電機大学へ連絡され，お祝金が支出されます。当然のことですが，校友会においても同様な処理がおこなわれます。（但し，先生の出席の有無にかかわらず，お祝金は支給されます）

なお，補助的なものとして，クラス会の連絡用ハガキの交付もなされます。

〔お祝金々額〕

高等学校同窓会	5,０００円
東京電機大学	5,０００円
東京電機大学校友会	１０,０００円

お祝金の支給状況　（件）

昭和５０年	２３	昭和５５年	２８
５１	３５	５６	２５
５２	２８	５７	４０
５３	３４	５８	２４
５４	３３	５９	２１

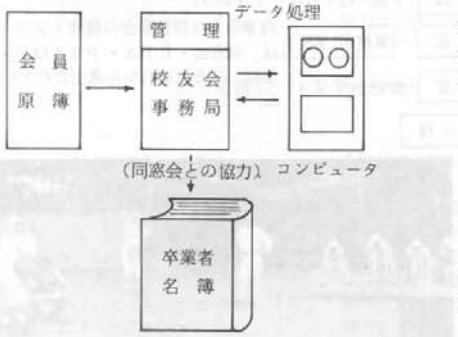
*お願い
クラスの住所録を必ず校友会へお送り下さい。

名簿の整備・校友会案内

同窓会が充実しているかどうかは，その名簿を見ればわかるといわれています。名簿の充実している会は，その活動も活発です。

本会の名簿は，最近では５７年度に発行いたしました。

本年も次の様な名簿の整備と充実を計画しておりますので宜しく御協力をお願い致します。



1. 原簿の整備

本会の会員名簿の原簿はデータ処理を迅速，かつ，正確に行うためコンピュータによって処理されています。同窓会は会員の皆様から住所，勤務先などの変更届が出されると，直ちに原簿であるマスターテープを修正し，つねに最新のデータが格納されるよう努めています。

住所・勤務先　その他に変更がありましたら，必ず校友会に御一報願います。また同様に，知人，友人につきましても現在発行している名簿より，変更されていましたら，校友会に御連絡下さい。

東京都千代田区神田錦町１−４
東京電機大学校友会内　高校卒業者名簿係
ＴＥＬ　03−294−1551（内線5550）

2. 名簿の頒布

５７年度に発行した同窓会名簿を購入御希望の方は，代金2,５００円（送料は別途３００円）を添えて現金書留でお申し込み下さい

なお，残り少なくなっておりますので，なるべく早めにお申し込み願います。

校友会費を納めましょう！

高校同窓会の行事や学園の近況などは工学情報に記載されます。お手元に届いていない方は，下記のとおりお申し込み下さい。また，クラス会開催の場合，祝い金等の制度もありますので名簿編さん（住所・勤務先）とも併せてご協力くださいますようお願いいたします。

記

- ３年分会費　6,０００円
- ５年分会費　１０,０００円
- 終身会費　６０,０００円

（会費には工学情報講読料が含まれています。）

◎ 納入方法
1. 郵便振替
2. 現金書留
3. 銀行口座自動引落制度

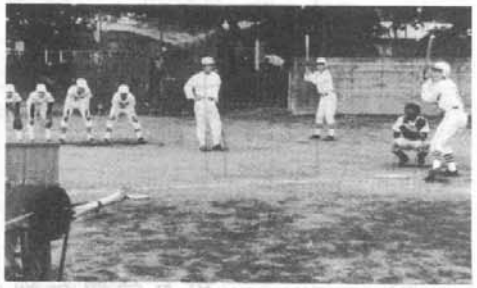
校友会は，皆様からの会費によって運営されております。財政的な基盤が確立していなければ十分な校友会活動もできません。ぜひとも多数の卒業生に会員になっていただき，校友会並びに母校の発展充実に一段のご支援をお願い申し上げます。

後援会活動

高校後援会は昭和54年12月，学校，同窓会，ＰＴＡ，およびＰＴＡ・ＯＢ等各意の努力と熱意により発足し，会員の募集等を行い具体的活動に入り満５年を数えるに至りました。クラブ活動の援助として現在は運動場への車代等にすぎませんが，昨年よりは今年，今年よりは来年と，すこしでも生徒の活力を増大するため努めて行きたいと考えて居ります。現在後援会の組織図は下記のとおりです。

〔後援会組織図〕

理事会及び評議員会の構成メンバーは，同窓会・ＰＴＡ・ＰＴＡＯＢ・学校，のそれぞれから選出されている。



＊今後の後援会活動を活発にする為に機会をとらえ下記趣旨の入会即進のお願いもいたして居ります。１人でも多く会員への参加勧誘をお願いいたします。

「後援会入会のお願い」

新緑の候　益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃　東京電機大学高等学校の教育につきましては格別のご理解を賜り衷心より御礼申し上げます。

ご存知のように，学校ではかねてより生徒の人格形成と体力の増進を目指しご指導をされております。その重要な一つの方策として課外の部活動に力を入れておられますが，先生方の丹精なご指導で着実にその成果をあげられ，最近は，特にいくつかの運動部で目ざましい進歩が見られ，全国大会もあと一歩という所までこぎつけておられますことはご同慶の至りに存じます。

然しながら，本校の課外活動についての環境は必ずしも恵まれたものとはいえない状況で，学校もＰＴＡも現在出来る限りの援助をされておられますが，それにも自ずと限度もあり，顧問の先生方や生徒諸君もかなりの出費を余儀なくされた状況で練習や試合に参加しているのが現状であります。

そこで，せめてその経済的な側面だけでもお力になりたいという気持から，学校のご諒解を得まして，去る54年12月５日に東京電機大学高等学校後援会が設立されました。

つきましては皆様方にも是非，この趣旨にご賛同をいただき一人でも多くご加入をいただき一日も早く生徒諸君の経済的な負担を軽くし，クラブ活動に専念していただける日の実現を期して力を合わせて参りたいと存じます。１人１人の力はたとえ小さくとも結集すれば大きな力になります。そしてそれがやがては学校を支える強い力になることを確信いたします。

何卒各位のご協力とご理解を賜り後援会に入会していただきますようお願い申し上げます。

昭和60年５月　日

東京電機大学高等学校後援会
会長　池ケ谷道夫

有志各位殿

校　歌

東京電機工業学校校歌

文楽博士　五十嵐　力　作詩
東京音楽学校教授　下総　皖一　作曲

(一)
日の本の首府　大東京
工科の王座　大電気
名誉の二語を名において
吾等の学ぶ学びやを
東京電機工業と
いうにあらずやこのよき名
学びやの名をあだにすな
学びやの名をあだにすな

(二)
千早振てう神田の区
錦の町に盤踞して
電機の技を理論を
修め究めつ手を携りて
世界の進歩に先きがくる
学びや我れぞ懸命の
努力ささげてつとめよや
努力ささげてつとめよや

(三)
皇紀は二千六百年
新大東亜の建設に
国人こぞり奮う世に
生れあいたる吾等ぞや
至誠　勤労　独創の
三綱領にかがみつつ
御国のためにいざ進め
御国のためにいざ進め

東京電機第一工業学校校歌

(一)
日の本の首府　大東京
工科の王座　大電機
名誉の二語を名において
吾等の学ぶ学びやを
東京電機第一工業と
いうにあらずやこのよき名
学びやの名をあだにすな
学びやの名をあだにすな

(二)
千早振てう神田の区
錦の町に盤踞して
電機の技を理論を
修め究めつ手を携りて
世界の進歩に先きがくる
学びや我れぞ懸命の
努力ささげてつとめよや
努力ささげてつとめよや

(三)
皇紀は二千六百年
新大東亜の建設に
国人こぞり奮う世に
生れあいたる吾等ぞや
至誠　勤労　独創の
三綱領にかがみつつ
御国のためにいざ進め
御国のためにいざ進め

東京電機第二工業学校校歌　(案)

(一)
みやこのまなか錦のまちに
学びの園は白くそびゆる
第二工業その名も永久に
たゝえん我等が母校の歴史
(折返)電機学園第二工
電機学園第二工

(二)
朝な夕なに集ひし友は
画く図面に巧を寫し
廻る電機に真理を求め
いざや究めん技術の業を

(三)
個性と自由を伸し育てつ
友愛信義を高むるこそは
我等の理想共に手をとり
栄えある庭に咲き出でむいざ

学園歌

堀内敬三　作詩・作曲

(一)
若き命の　花萌えて
勇きづる力　限りなし
電光を駈り　雷を呼ぶ
未来へ進む　この門出
われらは集う　電機学園

(二)
新たに国は　よみがえり
飛躍の天地　いま開く
電波に結ぶ　西東
栄えの春を　築くべく
われらは学ぶ　電機学園

(三)
大地の極み　雲のはて
幸をたずねて　ゆくとても
誓は固き　幾万の
心の家と　永久に
われらは護る　電機学園

東京電機大学高等学校校歌

土岐善麿　作詩
信時　潔　作曲

(一)
都心の天地は高くひろく
輝き集る時代の文化
科学と技術の上に立ちて
真理を仰げば富士に雲なく
勤労の道に希望あり

(二)
創意の火花は潔くさえて
平和のいとなみ昼夜絶えず
社会の進歩を共にうけて
静かにたどれば回路正しく
新たなる世界開けたり

(三)
歴史に栄ゆる電機学園
高校我等の負いゆく使命
親愛ひとしく競う意気に
相呼び相寄る自治のよろこび
協同の歩み力あり

● 編 集 後 記 ●

昭和59年10月に「25周年記念事業委員会」の第１回の会合が持たれ，その日を起点として「同窓会小冊子の発行」を目的とする小委員会がスタートし，14回ほど編集会議がもたれ，予定日での発行にこぎつけることができました。その間の編集委員の延作業時間は校友会会議室を使用している場合のみでも約１５０時間に達しました。

しかし，この企画には名誉会長をはじめとして，現会長およびその経験者，座談会に出席いただいた日本ＴＩ社長の石川さんと佐藤先生，表紙の作成に御協力いただいた河部先生，カメラマン他の雑務をお願いした高等学校教職員の方々，また通信連絡に資料作成にと協力いただいた校友会職員の方々など，そのマンパワーの大きさは想像を超える膨大なものと考えられます。

一冊の本が書かれるためには，50冊以上の資料を必要とするといわれますが，わずか36ページほどの小冊子にこれだけのエネルギーが投入されていることに，あらためて驚きを感ずるとともに，このエネルギーは同窓会が創設された当時からの多くの人々の努力がそのバックグラウンドとなっていることをひしひしと感じました。そして，この「同窓会小冊子の発行」という貴重な体験を得る機会に恵まれましたことを感謝しております。

〔編集担当〕　柴山茂男・石崎泰司・須賀寛光

昭和60年６月22日　発　行　（非売品）
〔編集兼発行所〕
東京電機大学高等学校同窓会
住所：東京都千代田区神田錦町１の４
東京電機大学校友会内
電話：03−294−1551（代）

東京電機大学高等学校
住所：東京都文京区後楽１−７−26
電話：03（813）6911（代）